

地方独立行政法人北九州市立病院機構
令和元年度の業務実績に関する評価結果報告書

(案)

令和 2 年 月

北九州市

目 次

はじめに	1
第1項 全体評価	2
第2項 項目別評価	4
1 大項目評価	
第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する 目標を達成するためとるべき措置	4
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	6
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	7
第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	8
2 小項目の実績・状況	9
第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する 目標を達成するためとるべき措置	22
1 政策医療の着実な実施	22
2 医療センター及び八幡病院の特色を活かした医療の充実	32
3 医療の質の確保	42
4 市民・地域医療機関からの信頼の確保	56
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	68
1 収入増加・確保対策	68
2 経費節減・抑制対策	76
3 自立的な業務運営体制の構築	80
4 職場環境の充実	88
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	92
1 財務基盤の安定化	92
2 運営費負担金のあり方	98
第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	100
1 看護専門学校の運営	100
2 施設・設備の老朽化対策	104
3 市政への協力	106
第5 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画	108
第6 その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項	108

はじめに

地方独立行政法人法第28条の規定に基づき、地方独立行政法人北九州市立病院機構の令和元年度における業務実績の全体について、地方独立行政法人北九州市立病院機構評価委員会の意見聴取を行った上で、総合的に評価を実施した。

評価に際しては、「地方独立行政法人北九州市立病院機構業務実績評価の基本方針」及び「地方独立行政法人北九州市立病院機構年度評価実施要領」に基づき行った。

地方独立行政法人北九州市立病院機構評価委員会 委員名簿

氏名	役職等	備考
穴井 堅能	北九州市医師会 会長	
石橋 薫	福岡県看護協会 専務理事	
小松 啓子	社会福祉法人北九州市手をつなぐ育成会 理事長 福岡県立大学 名誉教授	
田中 雅夫	地方独立行政法人下関市立市民病院 理事長	
松木 摩耶子	松木公認会計士税理士事務所 公認会計士・税理士	
柳井 雅人	北九州市立大学 副学長	
吉田 ゆかり	医療法人よしだ小児科医院 理事長	
渡邊 典子	思永法律事務所 弁護士	

(令和2年7月17日現在)

第1項 全体評価

1 評価結果

北九州市立病院機構における令和元年度の業務実績の全体評価は、「中期計画の実現に向けて計画よりやや遅れている」とする。

2 評価理由

第1期中期目標期間の初年度である令和元年度の業務実績について、第1及び第4の大項目評価は「評価B」、第2、第3は「評価C」となった。

理事長を中心に、地方独立行政法人制度の特長を活かした自立的な運営を目指した取り組みに着手しているが、財務内容の改善が図れず、令和元年度の経常収支等は悪化している。

このため、令和元年度の業務実績は「中期計画の実現に向けて計画よりやや遅れている」と評価した。

なお、独立行政法人化初年度である令和元年度では、「取組み、成果、課題、評価理由等」において、「調査・研究に着手した」「準備に取り組んだ」などと記述する項目が約40あった。令和2年度以降においては、こうした調査・研究、準備をベースに、質の高い医療の提供や効率的・効果的な業務運営の実現に向け、積極的に取り組みを進めることを期待する。

評価にあたっての評価委員会意見・指摘等

評価委員会でいただいたご意見や指摘等を記載

3 大項目別の評価結果一覧

大項目	評価項目数	小項目評価数					平均	大項目評価			
		評価5	評価4	評価3	評価2	評価1					
第1	市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	1	2					3.0	B		
第2	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置		8					2.9	C		
第3	財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置		4					2.5	C		
第4	その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置		3					3.3	B		
合 計		2	7	0	2	2	1	4	0	—	—

評価S：評価Aを満たした上で、特筆すべき進捗が認められる
(市長が特に認める場合)

評価A：中期計画の実現に向けて計画以上に進んでいる
(小項目評価結果の2以下が無く、平均が3.5以上)

評価B：中期計画の実現に向けておおむね計画どおり進んでいる
(小項目評価結果の2以下の項目評価数が2以下で、小項目評価結果の平均が3以上)

評価C：中期計画の実現のためにはやや遅れている
(小項目評価結果の平均が3未満)

評価D：中期計画の実現のためには重大な改善すべき事項がある
(市長が特に認める場合)

第2項 項目別評価

1 大項目評価

第1	市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
----	--

評価結果	B	中期計画の実現に向けておおむね計画どおり進んでいる
評価理由	<p>感染症医療において、医療センターは、市内唯一の第二種感染症指定医療機関として、新型コロナウイルス感染症対策の中心的な役割を担った。</p> <p>救急医療において、八幡病院は、北九州医療圏における救急医療体制の中核施設として、24時間365日救急患者を断らず受け入れ、適切な医療を提供する救命救急センターの役割を担うものの、救急対応する医師の不足により救急応需率が低下するなどの課題を抱えている。</p> <p>医療の充実において、医療センターでは、地域連携がん診療拠点病院として、高度で専門的な医療を提供するための取組みを進め、手術支援ロボット「ダヴィンチ」の導入や更新したリニアックによるIMRT（強度変調放射線治療）の開始などに取り組んだ。また、緩和ケアセンターや薬剤師外来の開設、チーム医療の強化・充実などを実施した。</p> <p>八幡病院では、小児医療については、新病院において整備した施設・設備を活用した取組みを進めるとともに、「小児疾患特定疾病児童等レスパイト支援事業」の実施など障害を持つ小児患者や家族に対する医療面での支援の充実を図った。</p> <p>医療の質の確保のため、両病院とも人材の確保や育成に向けた取組みを進めるとともに、チーム医療の推進や医療安全対策など、年度計画に基づいた取組みを進めた。</p> <p>院内環境の整備では、医療センターでは、31年2月に設置した消化器センターや女性専用病棟の運用を行うとともに、患者支援センターを開設するなどに取り組んだ。</p> <p>以上のことから、「中期計画の実現に向けておおむね計画どおり進んでいる」と評価する。</p>	

小項目評価の集計結果

小項目	評価 5	評価 4	評価 3	評価 2	評価 1
1 政策医療の着実な実施					
(1) 感染症医療		○			
(2) 周産期医療			○		
(3) 小児救急を含む救急医療				○	
(4) 災害時における医療			○		
2 医療センター及び八幡病院の特色を活かした医療の充実					
(1) 医療センター			○		
(2) 八幡病院			○		
3 医療の質の確保					
(1) 人材の確保・育成			○		
(2) 医療の質の確保、向上			○		
(3) 医療安全の徹底			○		
(4) 医療に関する調査・研究			○		
4 市民・地域医療機関からの信頼の確保					
(1) 患者サービスの向上			○		
(2) 地域医療機関等との連携			○		
合 計		1	10	1	

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

評価結果	C	中期計画の実現のためにはやや遅れている
評価理由	<p>独立行政法人化初年度である令和元年度は、マネジメント体制の確立などの自立的な業務運営体制の構築を進めるとともに、経費削減・抑制対策についての取り組みを進めた。</p> <p>一方で、病床利用率や入院延べ患者数、診療単価等について、営業収支及び経常収支の黒字化を前提とした法人の目標と乖離が生じている。</p> <p>また、適切な診療報酬の確保については、施設基準の取得を進めるとともに、経営状況や診療報酬制度等への理解を深めるための取組みや、プロパー職員の採用等による事務処理効力の強化に努めているが、査定減比率の改善には結びついていない。</p> <p>このため、「中期計画の実現のためにはやや遅れている」と評価する。</p>	

小項目評価の集計結果

小項目	評価 5	評価 4	評価 3	評価 2	評価 1
1 収入増加・確保対策					
(1) 病床利用率の向上				○	
(2) 適切な診療報酬の確保			○		
2 経費節減・抑制対策					
(1) コスト節減の推進			○		
(2) 医療機器等の有効活用及び計画的な整備			○		
3 自立的な業務運営体制の構築					
(1) マネジメント体制の確立			○		
(2) 職員の経営意識の向上			○		
(3) 法令・行動規範の遵守等			○		
4 職場環境の充実			○		
合計			7	1	

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

評価結果	C	中期計画の実現のためにはやや遅れている
評価理由	<p>マネジメント体制の確立や目標管理の徹底、増収対策、費用削減に取り組んでいるものの、営業収支と経常収支は目標値を大きく下回る赤字となった。また、単年度実質収支と年度末資金剰余についても、移行前地方債償還債務の返済時期のずれを加味すれば目標値を大幅に下回っている。</p> <p>このため、「中期計画の実現のためにはやや遅れている」と評価する。</p>	

小項目評価の集計結果

小項目	評価 5	評価 4	評価 3	評価 2	評価 1
1 財務基盤の安定化					
ア 政策医療を着実に提供しつつ、地方独立行政法人制度の特長を活かした効率的な病院運営を行うことにより、財務基盤を安定化させる。			○		
イ 中期目標期間における営業収支及び経常収支の黒字化を実現する。				○	
ウ 大規模な設備投資等に伴う資金の借入れや返済等、長期的な資金収支の均衡を図る。				○	
2 運営費負担金のあり方			○		
合 計			2	2	

第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

評価結果	B	中期計画の実現に向けておおむね計画どおり進んでいる
評価理由	看護専門学校において優秀な人材を育成する地域の看護師養成機関として臨床看護及び教育の質の向上に努めていること、医療センターの老朽化対策を進めていること、市政へ積極的に協力していることから、「中期計画の実現に向けておおむね計画どおり進んでいる」と評価する。	

小項目評価の集計結果

小項目	評価 5	評価 4	評価 3	評価 2	評価 1
1 看護専門学校の運営			○		
2 施設・設備の老朽化対策			○		
3 市政への協力		○			
合計		1	2		

2 小項目の実績・状況

評価方法

(1) 法人の自己評価

法人は、中期計画及び年度計画の実施状況等が明らかになるよう、小項目ごとの当該事業年度における業務の実績をできる限り定量的に記載するとともに、次の5段階で自己評価を行い、判断理由等を記載した業務実績報告書を作成する。なお、業務の実績には、病院ごとの実績がわかるよう工夫し、特記事項として、特色ある取組、法人運営を円滑に進めるための工夫、今後の課題などを自由に記載するものとし、自己評価は、病院の自己点検に基づき、法人として行うものとする。

評価5・・・年度計画を大幅に上回って実施している。

評価4・・・年度計画を上回って実施している。

評価3・・・年度計画を順調に実施している。

評価2・・・年度計画を十分に実施できていない。

評価1・・・年度計画を大幅に下回っている。

(2) 北九州市評価

市長は、業務実績報告書記載の法人の自己評価を踏まえ、小項目ごとの当該事業年度における業務の実績について、次の5段階による評価を行う。

その際、単に目標値及び前年度数値と当該年度の実績値の比較だけでなく、中期計画を達成するために効果的な取組が行われているかどうかなど、総合的に判断するとともに評価の判断理由等を記載する。

その他、必要に応じて、特筆すべき点や遅れている点についてコメントを付す。

評価5・・・年度計画を大幅に上回って実施している。

評価4・・・年度計画を上回って実施している。

評価3・・・年度計画を順調に実施している。

評価2・・・年度計画を十分に実施できていない。

評価1・・・年度計画を大幅に下回っている。

I 法人に関する基礎的な情報

1 法人の概要

(1) 法人の目的

地方独立行政法人法に基づき、地域の医療機関との役割分担と連携の下、北九州市の医療施策として求められる医療の提供、医療に関する調査研究、医療に従事する者の育成等の業務を行うことにより、医療水準の向上を図り、もって市民の健康の維持及び増進に寄与することを目的とする。

(2) 法人の名称

地方独立行政法人北九州市立病院機構

(3) 法人の設立団体

北九州市

(4) 本部の所在地

北九州市小倉北区古船場町1番35号（北九州商工貿易会館内）

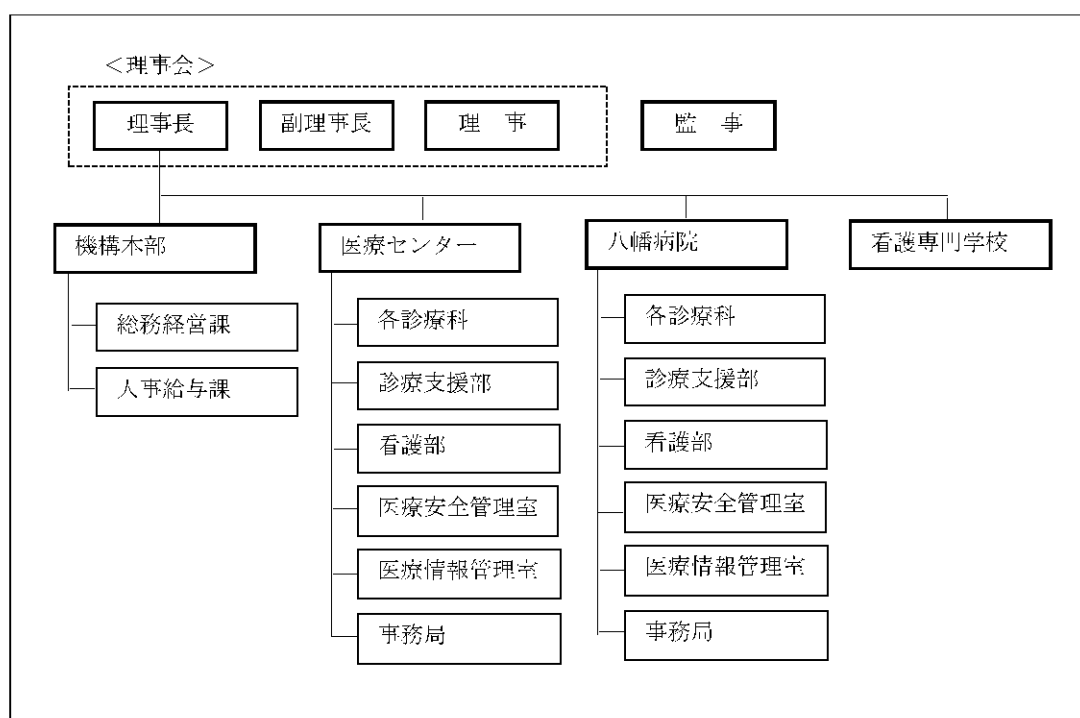
(5) 沿革

平成31年4月1日 地方独立行政法人として設立

(6) 設立に係る根拠法

地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）

(7) 組織図



(8) 設置・運営する施設の概要

北九州市立医療センター	北九州市小倉北区 馬借二丁目1番1号	一般病床 感染症病床	506床 16床
北九州市立八幡病院	北九州市八幡東区 尾倉二丁目6番2号	一般病床	312床
北九州市立看護専門学校	北九州市小倉北区 馬借二丁目1番1号	定員	120名

(9) 資本金の額

資本金の額 15億9421万円

(10) 役員状況

理事長(常勤)	中西 洋一	
副理事長(常勤)	武田 信一	機構本部長
理事(常勤)	中野 徹	北九州市立医療センター院長
理事(常勤)	伊藤 重彦	北九州市立八幡病院院長
理事(非常勤)	田中亮一郎	第一交通産業株式会社代表取締役社長
理事(非常勤)	松本 哲朗	元産業医科大学病院長・北九州市医務監
監事(非常勤)	中野 昌治	弁護士
監事(非常勤)	和唐 雄一	公認会計士

(11) 職員数 ※令和2年3月末現在

北九州市立医療センター	1,036人
北九州市立八幡病院	623人
北九州市立看護専門学校	15人
機構本部	30人
合計	1,704人

※常勤職員数 1,222人(前年度より65人増加)、平均年齢 39.7歳

市から法人への出向者数 59人、非常勤職員数 482人

2 基本的な目標等

当機構が運営する医療センター及び八幡病院は、政策医療として周産期、感染症、小児救急を含む救急及び災害時における医療を担っているほか、医療センターはがん医療、八幡病院は小児医療において、北九州地域で有数の実績を示している。

また、設立団体である北九州市からは、政策医療等を着実に実施するとともに、地方独立行政法人制度の特長を活かした自立した病院運営を行うこと、福岡県地域医療計画の実現に向けて地域医療機関との役割分担と連携に取り組むことが期待されているほか、中期目標期間において営業収支及び経常収支の黒字化を実現することが求められている。

当機構では、北九州市から示された中期目標を実現するため、政策医療を着実に実施しつつ、経営基盤の安定化に向けて、理事長のリーダーシップの下、職員一丸となって取り組むこととしている。

【北九州市立病院機構の基本理念】

1. 常に安全・安心で患者さんに信頼される医療を提供します。
2. たゆまず研鑽を積み、技能を磨き、最高の医療を提供します。
3. 地域との連携の下に、市民の病院としての役割を果たします。
4. 優秀な医療人材を育成し、地域社会に貢献します。

II 財務に関する情報

1 財務諸表の要約

(1) 貸借対照表

(単位:百万円)

資産の部	金額	負債の部	金額
固定資産	29,253	固定負債	28,799
有形固定資産	27,479	資産見返負債	1,149
無形固定資産	591	長期借入金	556
投資その他の資産	1,183	移行前地方債償還債務	20,024
流動資産	5,057	引当金	6,470
現金及び預金	1,297	資産除去債務	143
医業未収金	3,585	長期リース債務	457
未収金	72	流動負債	5,510
医薬品	76	1年以内返済予定 移行前地方債償還債務	2,211
診療材料	21	預り補助金等	1
前払金	3	寄附金債務	1
前払費用	0	医業未払金	1,797
その他流動資産	3	未払金	435
		未払消費税等	26
		預り金	100
		引当金	868
		短期リース債務	63
		その他流動負債	8
		負債合計	34,309
		純資産の部	金額
		資本金	1,594
		繰越欠損金	▲1,594
		純資産合計	1
資産合計	34,309	負債純資産合計	34,309

(注) 計数はそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致していないものがある。

(2) 損益計算書

(単位:百万円)

科目	金額
営業収益	25,430
医業収益	21,942
看護師養成収益	59
運営費負担金収益	3,355
補助金等収益	37

寄附金収益	0
資産見返補助金等戻入	35
資産見返寄付金等戻入	3
営業費用	27,140
医業費用	25,632
看護師養成費用	178
一般管理費	430
控除対象外消費税等	841
資産に係る控除対象外消費税償却	58
営業損失	1,710
営業外収益	284
運営費負担金収益	84
その他営業外収益	201
営業外費用	162
財務費用	155
その他営業外費用	7
経常損失	1,588
臨時利益	77
臨時損失	83
当期純損失	1,594
当期総損失	1,594

(注) 計数はそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致していないものがある。

(3) キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

科 目	金 額
業務活動によるキャッシュ・フロー	978
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲1,231
財務活動によるキャッシュ・フロー	336
資金増加額	83
資金期首残高	1,214
資金期末残高	1,297

(注) 計数はそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致していないものがある。

(4) 行政サービス実施コスト計算書 (単位:百万円)

科 目	金 額
業務費用	5,180
損益計算書上の費用	27,385
(控除) 自己収入等	▲22,205

引当外退職給付増加見積額	18
機会費用	0
行政サービス実施コスト	5,198

(注) 計数はそれぞれ四捨五人によっているため、端数において合計とは一致していないものがある。

2 重要な施設等の整備の状況

該当なし

3 予算及び決算の概要

(1) 業務量 (法人全体)

項目		予算 (A)	決算 (B)	比較 (B-A)
入院	稼働病床数 (床)	834	834	0
	病床利用率 (%)	87.1	80.7	▲6.4
	1日平均患者数 (人)	726.2	673.1	▲53.1
	年間延べ患者数 (人)	265,774	246,348	▲19,426
	診療単価 (円)	60,218	59,515	▲703
外来	1日平均患者数 (人)	1,623.5	1,629.6	6.1
	年間延べ患者数 (人)	396,139	394,363	▲1,776
	診療単価 (円)	16,967	17,513	546

(2) 予算及び決算の概要 (法人全体)

(単位: 百万円)

項目	予算 (A)	決算 (B)	比較 (B-A)
収入	27,801	26,290	▲1,511
営業収益	26,708	25,427	▲1,281
医業収益	23,271	21,976	▲1,295
運営費負担金収益	3,340	3,355	15
補助金収益	37	37	▲0
その他	60	59	▲1
営業外収益	333	293	▲40
運営費負担金収益	99	84	▲15
その他営業外収益	234	209	▲25
臨時利益	—	1	1
資本収入	761	570	▲190
長期借入金	761	556	▲205
その他資本収入	—	14	14
支出	27,980	25,764	▲2,216

営業費用	24,568	24,734	165
医業費用	23,871	24,144	273
給与費	13,940	13,743	▲196
材料費	6,298	6,601	303
経費	3,522	3,712	191
その他	111	88	▲24
一般管理費	539	421	▲118
給与費	220	214	▲6
経費	318	207	▲111
その他	2	0	▲1
その他	159	169	10
営業外費用	239	189	▲50
臨時損失	—	7	7
資本支出	3,173	835	▲2,338
建設改良費	761	635	▲127
償還金	2,211	—	▲2,211
その他支出	200	200	—
単年度資金収支	▲179	526	705
年度末資金剰余	2,022	2,727	705

(注) 計数はそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致していないものがある。

Ⅲ 事業に関する説明

1 法人の総括と課題

独法化初年度となる令和元年度は、理事長のリーダーシップの下、「市立病院のブランド力の向上」と「役員及び職員の経営に対するマインドセットの変革」を掲げて、北九州市立病院機構としての自立的な運営体制の確立に取り組んだ。

特に、機構全体のマネジメント体制については、常勤役員によるミーティングや、幹部職員で構成する経営本部会議の設置により、定期的かつ迅速に経営状況や運営上の課題等を共有しながら、適時適切に方針決定していく独自の仕組みを構築した。

また、新しい組織風土づくりに向けて、機構全体の基本理念・シンボルマークの策定、職員向け広報誌の発行など、医療センター・八幡病院・看護専門学校・機構本部という4つの部門の一体感の醸成に努めるとともに、経営状況説明会、診療科別経営ヒアリング、働き方改革の検討などを通じて、職員と経営幹部の相互交流を推進した。

さらに、医療提供機能の強化に向けて、多様な職種において優秀な人材を確保して人員体制を大幅に充実させたほか、手術支援ロボットの導入や、治験・臨床研究の充実など、病院の将来につながる取り組みも着実に進めた。

一方、経営状況については、新たな施設基準の獲得や病床稼働率の向上、新たな契約制度の導入など収支両面での取り組みが一定の成果をあげたものの、収益面及び費用面で想定外の事態が発生したことや、市内でも新型コロナウイルスの感染が拡大した影響もあり、令和元年度の決算は非常に厳しいものとなった。

今後は、新型コロナウイルス対策によって更なる収支の悪化が予想される中、医師をはじめとする優秀な人材の獲得、治験・臨床研究の推進、働き方改革など機構の将来に向けた施策を推進しつつ、病床稼働率の向上や経費削減を着実に進めることにより、経営基盤の安定化に向けて、職員一丸となって取り組むこととしたい。

2 大項目ごとの特記事項

(1) 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

ア 政策医療の着実な実施

当機構が担う政策医療である感染症医療、周産期医療、小児救急を含む救急医療及び災害時における医療の提供については、効果的かつ効率的な運営に努めた。

特に、感染症医療については、今般の新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、第二種感染症指定医療機関である医療センターだけでなく、八幡病院においても外来患者及び入院患者の受入れを積極的に行うなど、当機構の2つの病院が、北九州地域の新型コロナウイルス対策における中心的な役割を担っている。

イ 医療センター及び八幡病院の特色を活かした医療の充実

医療センターにおいては、がん医療について、高度で専門的な医療を提供するため、がんゲノム医療提供体制の整備、手術支援ロボット「ダヴィンチ」の導入等を行った。

また、がん患者や家族の支援機能を充実させるため、緩和ケアセンターや薬剤師外来の開設、がん相談支援センターやがん看護外来の充実等にも取り組んだ。

八幡病院においては、小児医療について、専門性の高い小児科医を確保するとともに、小児集中治療室（P I C U）・無菌室を活用した専門医療を充実させたほか、小児患者の在宅医療の支援にも取り組んだ。

ウ 医療の質の確保

人材の確保・育成については、機構全体での職員採用計画を作成するとともに、リクルート活動を強化し、医師をはじめとする多様な職種の人材確保に努めた。また、医療スタッフが長く働き続けることができる職場環境を整備するため、資格取得を支援する制度や教育研修制度の構築にも着手した。

医療の質の確保・向上については、医療の多様化や複雑化に対応するため、医療スタッフが診療科や職域を超えて連携する「チーム医療」の推進に取り組んだほか、医療の標準化に向けてクリニカルパスの活用を推進した。また、手術支援ロボット「ダヴィンチ」の導入等、医療の高度化に対応するための取組みを進めた。

医療安全の徹底については、安全で安心な医療を提供するため、院内ラウンドや医療安全研修会を実施するとともに、インシデント・アクシデントレポートの分析による医療事故等の予防策の検討などに取り組んだ。また、地方独立行政法人として機構全体の危機管理体制の構築にも取り組んだ。

医療に関する調査・研究については、高度で先進的な医療の提供に向けて、機構全体で治験・臨床研究を推進していくための体制整備に取り組んだ。

エ 市民・地域医療機関からの信頼確保

患者サービスの向上については、患者に寄り添う新たな看護方式の検討や受付・診察の待ち時間の短縮など患者目線での病院運営に取り組むとともに、新たに医療センターに女性専用病棟や患者支援センターを開設して快適な院内環境を整備したほか、機構全体のホームページを再構築してきめ細かな情報を発信するなど患者や市民への情報提供の充実にも取り組んだ。

地域医療機関等との連携については、地域医療機関に信頼される病院を目指して、アンケートやヒアリングを通じた課題の把握や改善策の検討を行ったほか、医療連携室の機能強化に取り組んだ。

また、医療センターと八幡病院の連携については、テレビ会議システムを導入して遠隔で相互のカンファレンスや会議を開催できる体制を整備したほか、各病院の専門分野における相互の患者紹介を推進するとともに、新たに医師や診療放射線技師の人事交流にも取り組んだ。

(2) 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

ア 収入増加・確保対策

病床利用率の向上については、具体的な数値目標を設定してベッドコントロールの効率化を推進したほか、救急患者の積極的な受入れに取り組んだ。また、収支の改善に向けて、診療科ごとに数値目標を設定して進捗管理していく体制を整えた。

適切な診療報酬の確保については、医療事務の処理能力の強化に向けて、専門的知識や経験を有する人材を獲得したほか、診療報酬に関する勉強会を実施して職員の能力向上に努めた。また、最新の診療報酬制度に的確に対応するため、新たな施設基準の取得に取り組んだほか、査定減比率の向上や未収金の防止対策にも取り組んだ。

イ 経費節減・抑制対策

コスト削減の推進については、調達部門に専任職員を配置して組織体制の強化を図ったほか、高額医療機器の調達と複数年保守の一体契約を行うなど地方独立行政法人制度の特長を活かした柔軟な契約制度の導入を推進した。また、後発医薬品の採用率向上や両病院の委託契約の一本化などにも取り組んだ。

医療機器等の有効活用及び計画的な整備については、医療機器の運用部門を集約して効率化を進めたほか、また、両病院の電子カルテの共通化に向けた工程確認を行ったほか、両病院での医療機器の規格統一化にも取り組んだ。

ウ 自立的な業務運営体制の構築

マネジメント体制の確立については、常勤役員によるミーティングを頻回に開催して課題等を共有し、かつ迅速に対処できる体制を構築するとともに、理事会に次ぐ意思決定機関として機構幹部職員で構成する経営本部会議を設置して機構全体のマネジメント体制を構築した。また、病院経営に精通した民間人材を登用して病院事務局の組織体制を強化したほか、機構全体の基本理念・シンボルマークを策定するなど職員が一体となって病院運営にあたるための組織風土づくりにも取り組んだ。

職員の経営意識の向上については、病院運営や経営状況等を職員にリアルタイムに提供するため、職員向けの経営状況説明会を開催したほか、職員向け広報誌の定期的な発行やグループウェアを活用した情報発信等にも取り組んだ。

法令・行動規範の遵守等については、組織のガバナンス強化に向けた内部統制の整備に着手したほか、ハラスメント対策専門官の配置、内部規定の整備等によるハラスメント防止対策の強化に取り組んだ。

エ 職場環境の充実

働きやすく、長く働き続けることができる職場環境を構築するため、弾力的な勤務時間の導入や院内保育所の機能強化を実施するとともに、医療スタッフの負担軽減やタスクシフティングの推進に取り組んだほか、さらなる人事給与制度や評価制度の見直しに向けた調査・研究を進めた。また、各部門の全ての職種で構成する「働き方改革研究会」を立ち上げて、今後の働き方改革に向けた具体策を取りまとめた。

(3) 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

ア 財務基盤の安定化

財務基盤の安定化については、月次決算や部門別の目標達成状況の分析・共有により、目標管理による効率的な病院運営に努めるとともに、目標達成に対するインセンティブ制度の導入や寄付金受入れ制度の創設にも取り組んだ。

一方、令和元年度の経営状況については、収益面では、医療センターは上半期の低迷、八幡病院は内科系医師の大量退職等によって稼働目標を大きく下回ったほか、1月以降は新型コロナウイルス対策のため病床調整を行ったことにより、入院収益は予算目標を大きく下回った。また、費用面では、先行投資として手術支援ロボットを導入したほか、高額医薬品の使用増加、人件費高騰による委託料の増加等、新たに多額の費用が発生したため、費用が予算目標を上回る結果となった。そのため、令和元年度の決算については、中期目標に掲げた「営業収支及び経常収支の黒字化」が実現できない厳しいものとなった。

イ 運営費負担金のあり方

運営費負担金については、不採算医療である感染症医療や周産期医療などの政策医療を着実に実施していくため、市からの運営費交付金が国の基準に基づいて適切に交付されるよう、市と必要な協議を行った。

(4) その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

ア 看護専門学校運営

看護専門学校については、臨床看護及び教育の質の向上に向けて、優秀な教員人材の確保、教員の外部研修への参加などを実施するとともに、オープンキャンパスや学校訪問の実施など学校施設等の開放に取り組んだ。また、卒業生の市内就職率の向上に向けた卒業生のフォローアップに取り組んだほか、奨学金制度や授業料等の学生負担に関する調査・研究にも着手した。

イ 施設・整備の老朽化対策

建築後25年以上を経過した医療センターの施設や設備等の老朽化対策について、機構内部での調査・研究に着手した。また、政策医療については、市と緊密に連携しながら、市全体の枠組みの中で実施体制の改善等に取り組んだ。

ウ 市政への協力

市との緊密な連携体制の構築に向けて、市幹部と機構幹部の意見交換や、担当部局との定期的な情報交換を実施した。また、新型コロナウイルス対策については、市の要請に応じて、外来診療や入院受入れなどを積極的に行うなど市内の医療機関の中心的な役割を果たした。

項目別の状況

中期目標 (項目)	第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 政策医療の着実な実施 (1) 感染症医療
--------------	---

中期計画	年度計画
<p>(1) 感染症医療</p> <p>医療センターにおいて、市内で唯一の「第二種感染症指定医療機関」として、二類感染症や新型インフルエンザの受け入れに関して中核的な役割を担う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 二類感染症が発生した場合は、市の対策部門と密接な連携を図りながら、患者の収容・治療に迅速に対応する。 ○ 二類感染症患者の長期入院等に備えた体制を確保するとともに、二類感染症に対応できる専門的な知識と技術を有する職員の育成に努める。 ○ 感染症発生時に備え、検査試薬や医薬品等の十分な数量の確保に努めるとともに、関係機関と連携して必要な対策・訓練を実施する。 	<p>(1) 感染症医療</p> <p>医療センターにおいて、市内で唯一の「第二種感染症指定医療機関」として、二類感染症や新型インフルエンザの受け入れに関して中核的な役割を担う。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 二類感染症患者の長期入院等に備えた体制の整備 ○ 二類感染症に対応できる職員の育成 ○ 検査試薬や医薬品の十分な数量の供給体制の整備 ○ 関係機関との連携による対策等の実施に向けた検討 ○ 感染症医療の提供体制の適正化に向けた検討

中期目標 (内容)	医療センターにおいて、「第2種感染症指定医療機関」としての役割を果たすこと。
--------------	--

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(1) 感染症医療</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、医療センターにおいて、市内唯一の第2種感染症指定医療機関として、積極的に外来診療・入院受入れを実施した。また、八幡病院においても、同様に外来診療・入院受入れに対応するなど、当機構の2病院が市内医療機関の新型コロナウイルス対策の中核的な役割を担った。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 二類感染症患者の長期入院等に備え、看護体制の見直しに着手した。 ○ 二類感染症に対応できる職員の育成のため、院内の感染対策研修会を実施するとともに、感染管理認定看護師の養成研修に職員を派遣した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染対策研修会を4月と7月に2回実施 ・ 感染管理認定看護師の養成研修に1名派遣 ○ 検査試薬や医薬品の管理体制を見直し、在庫管理や期限管理等により過剰在庫を削減した。 ○ 新型コロナウイルス対策について、北九州市と緊密に連携して対応した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターの対応 <ul style="list-style-type: none"> 2月7日に、市内で最初となる「帰国者・接触者外来」を開設。 2月13日から感染症病棟で入院患者の受入れを開始。 3月末までに、外来患者86名、入院患者31名を診療したほか、4月以降の入院受入れ拡大に向けて準備を進めた。 ・ 八幡病院の対応 <ul style="list-style-type: none"> 3月1日に、市内で2番目となる「帰国者・接触者外来」を開設。 3月末までに、外来患者18名を診療したほか、4月以降の入院受入れに向けて準備を進めた。 ○ 感染症医療の提供体制の適正化に向けて、感染症病棟の施設や設備上の問題点を含め、医療センターの老朽化対策について、機構内部での調査・研究に着手した。 	5	4	<p>医療センターは、二類感染症に対応できる職員の育成など年度計画を順調に実施するとともに、新型コロナウイルス感染症について、第2種感染症指定医療機関として、外来及び入院患者の受入れについて、中心的な役割を果たした。</p> <p>一方で、感染症医療等に対して運営費負担金を受けており、新型コロナウイルス感染症対策の協力医療機関等から市立病院機構へ更なる対応が求められていることなどから、評価「4」とした。</p>

中期目標 (項目)	第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 政策医療の着実な実施 (2) 周産期医療
--------------	---

中期計画	年度計画
(2) 周産期医療 医療センターにおいて、「周産期母子医療センター」として、高度で専門的な医療を提供する。 ○ 胎児要因や母体要因による母体搬送の受け入れ、緊急分娩や異常分娩への小児科医の立ち会い、新生児外科疾患の手術などの診療を24時間体制で行うなど、ハイリスク妊娠やハイリスク新生児の診断・加療について北九州市とその近郊において中心的な役割を担う。	(2) 周産期医療 医療センターにおいて、「周産期母子医療センター」として、高度で専門的な医療を提供する。 【令和元年度の取組み】 ○ 周産期医療の提供体制の適正化に向けた検討

<関連指標>

項目	医療センター	
	平成29年度実績	令和元年度実績
母体搬送件数	112件	98件
NICU受入患者数	2,009件	2,476件

※母体搬送やNICU受入は、市内4ヶ所の周産期医療機関の役割分担によって行われている。

中期目標 (内容)	医療センターにおいて、「周産期母子医療センター」として、高度で専門的な医療を提供すること。
--------------	---

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(2) 周産期医療</p> <p>医療センターにおいて、周産期母子医療センターとして、24時間体制でハイリスク妊娠や新生児に高度で専門的な医療を提供し、北九州地域における中心的な役割を担った。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <p>○ 周産期医療の提供体制の適正化に向けて、市の協力も得ながら関係機関との調整に取組み、地域全体の医療提供機能を踏まえた運用の見直し（紹介患者の分娩対応）を行った。</p>	3	3	総合周産期母子医療センターを24時間体制で運営し、高度で専門的な医療を提供しているため、評価「3」とした。

中期目標 (項目)	第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 政策医療の着実な実施 (3) 小児救急を含む救急医療
--------------	---

中期計画	年度計画
<p>(3) 小児救急を含む救急医療 八幡病院において、「救命救急センター」、「小児救急センター」としての役割を果たす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 北九州医療圏における救急医療体制の中核施設として、救急外来施設の充実等により、24時間365日救急患者を断らず受け入れ、適切な医療を提供する。 ○ 特に小児医療については、小児科外来の充実や小児集中治療室（PICU）の整備等により、初療から集中治療を要する場合まで24時間365日対応できる環境を整え、適切な医療を提供する。 ○ 救急患者に対する適切な医療を提供するため、救急科及び関連診療科の医師確保に努めるとともに、救急科専門医及び初期研修医の基幹研修施設等として、人材育成を通じて救急受入れ体制の強化に取り組む。 	<p>(3) 小児救急を含む救急医療 八幡病院において、「救命救急センター」、「小児救急センター」としての役割を果たす。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <p><施設・設備の整備等></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 救急外来施設の充実等 ○ 小児科外来の充実 ○ 小児集中治療室（PICU）・無菌室等の活用 <p><院内体制の充実・強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 救急科及び関連診療科の医師確保 ○ 人材育成を通じた救急受入れ体制の強化 ○ 救急医療に関する専門人材の雇用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 救命救急士の採用 ○ 救急車応需率の向上

<関連指標>

八幡病院			
項目	平成29年度 実績	令和5年度 目標	令和元年度 実績
救急車応需率	96.3%	98.5%	94.0%
救急受入件数	3,567件	—	3,604件
救急患者手術件数	306件	—	342件
小児救急ウォークイン患者数	29,509人	—	30,402人

※ 救急車応需率＝救急車受入数÷救急要請数。

※ 小児救急ウォークイン患者数は、救急車を利用せずに時間外に受診した患者数。

中期目標 (内容)	八幡病院において、「救命救急センター」及び「小児救急センター」としての役割を果たすこと。
--------------	--

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(3) 小児救急を含む救急医療</p> <p>八幡病院において、「救命救急センター」、「小児救急センター」としての役割を担った。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <p><施設・設備の整備等></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新病院において整備した救急外来、小児科外来、小児集中治療室（P I C U）、無菌室等の施設・設備を適切に活用して医療を提供した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ P I C Uは、小児患者の夜間緊急入院等に活用（稼働率50%：延患者数1,465人÷8床×366日） ・ 無菌室は、白血病等の小児がん患者を対象に活用（稼働率75%：延患者数2,735人÷10床×366日） <p><院内体制の充実・強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 救急科及び関連診療科の医師確保に向けて、病院長等による大学医学部等への働きかけを行った。 ○ 救急科専攻医1名、初期研修医3名のほか、他病院の研修医を受け入れ、人材育成を通じた救急医受入れ体制の強化を行った。 ○ 救急医療に関する専門人材として、救急救命士の来年度からの採用に取り組んだ。 ○ 循環器内科医師不足のため胸痛患者の受け入れを制限することとなったが、他の診療科の協力により、90%を超える救急車応需率を維持した。 	3	2	<p>八幡病院では、救急車応需率が低下〔令和元年度94.0%（平成29年度比▲2.3%）〕した。</p> <p>新病院に移転し、施設・設備は整備されたが、北九州医療圏における救急医療体制の中核施設として、24時間365日救急患者を断らず受け入れ、適切な医療を提供する救命救急センターの役割を担うためには、循環器内科医を含む医師の確保が急務である。</p> <p>年度計画を十分に実施できていないと判断し、評価「2」とした。</p> <p>院内体制の充実・強化に向けた取り組みの進捗を期待する。</p>

中期目標 (項目)	第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 政策医療の着実な実施 (4) 災害時における医療
--------------	--

中期計画	年度計画
<p>(4) 災害時における医療</p> <p>ア 八幡病院において、北九州市地域防災計画や北九州市医師会医療救護計画に基づき、市及び北九州市医師会の指示の下、施設や設備面の機能を活かし、市内の「災害拠点病院」の統括病院としての役割を果たす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 災害発生時には院内に災害医療・作戦指令センター（DMOC）を設置し、関係機関と連携して医療支援を行う。 ○ 災害医療研修センター（DMEC）において、災害時に迅速かつ効果的な医療救護活動ができる人材を育成する。 ○ 災害医療コーディネーターが派遣される施設として、北九州地域の災害医療に対応する。 ○ 県内最大規模の屋上ヘリポートを活かし、広域から傷病等患者の受け入れを行うとともに、海上保安庁と連携し水難事故に対応する。 ○ 隣接する八幡薬剤師会と連携し、災害時に迅速かつ十分な薬品供給体制を構築する。 <p>イ 医療センター、八幡病院において、「災害拠点病院」としての役割を果たす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 災害拠点病院として、災害発生時には24時間体制で災害疾病者の受入れ及び搬出、被災病院、避難所・救護所等への支援を行うとともに、被災地に災害派遣医療チーム（DMAT）の派遣を行う。 	<p>(4) 災害時における医療</p> <p>ア 八幡病院において、北九州市地域防災計画や北九州市医師会医療救護計画に基づき、市及び北九州市医師会の指示の下、施設や設備面の機能を活かし、市内の「災害拠点病院」の統括病院としての役割を果たす。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 災害医療研修センターにおける人材育成 ○ 屋上ヘリポートの活用（広域からの患者受入れ） ○ 災害時の迅速かつ十分な薬品供給体制の構築に向けた取組み ○ DMOC訓練の継続的な実施 <p>イ 医療センター、八幡病院において、「災害拠点病院」としての役割を果たす。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 災害時の適切な対応

< 関連指標 >

項目		医療センター		八幡病院	
		基本計画	令和元年度	基本計画	令和元年度
日本DMAT登録 隊員数	医師	2人	1人	5人	6人
	看護師	2人	2人	4人	7人
	業務調整員	1人	2人	2人	4人
福岡県DMAT登録 隊員数	医師	2人	2人	5人	1人
	看護師	8人	6人	3人	3人
	業務調整員	6人	6人	3人	2人
DMAT等派遣回数（人数）		平成28年度 1回（4人）		平成28年度 3回（11人）	
		平成29年度 1回（5人）		平成29年度 1回（3人）	
		令和元年度 0回（0人）		令和元年度 0回（0人）	

中期目標 (内容)	<p>ア 八幡病院において、市及び北九州市医師会との連携の下、施設や設備面の機能を活かし、市内の「災害拠点病院」の統括病院としての役割を果たすこと。</p> <p>イ 医療センター及び八幡病院において、「災害拠点病院」としての役割を果たすこと。</p> <p>ウ 災害時における医療提供については、病院自体が被災することも想定して対応策を準備すること。</p>
--------------	--

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(4) 災害時における医療</p> <p>ア 災害拠点病院の統括病院としての役割 八幡病院において、災害時における市内の「災害拠点病院」の統括病院としての役割を果たすための取組みを行った。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 院内で大規模なDMOC訓練を実施したほか、被災患者の搬出入体制等に関するマニュアルを整備した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 豪雨災害を想定した200人規模のDMOC訓練を7月に実施 ○ 災害時に備え、災害医療研修センターにおける人材育成について、調査・研究に着手した。 ○ 海上保安庁や市消防局ヘリコプターによる離着訓練を実施するとともに、患者受入れ等で屋上ヘリポートを適切に活用した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 屋上ヘリポート使用回数 4回 ○ 災害時の迅速かつ十分な薬品供給に向けて、3月に八幡薬剤師会と協定を締結した。 <p>イ 災害拠点病院としての役割 医療センター、八幡病院において、災害時の適切な対応により、「災害拠点病院」としての役割を果たすための取組みを実施した。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 災害時に適切な対応を行うため、医療センターにおいて、職員向けの災害時情報配信システムを導入したほか、八幡病院において、大規模なDMOC訓練を実施した。 	3	3	<p>災害時における医療提供について、災害時の迅速かつ十分な薬品提供に向けて八幡病院と八幡薬剤師会が協定を締結するなど、年度計画を順調に実施しているため、評価「3」とした。</p>

<p>ウ 災害時における医療提供については、病院自体が被災することも想定して対応策を準備する。</p> <p>○ 医療センターにおいては、国の基準に基づいて非常用電源や備蓄資材（食糧・飲料水、医薬品等）を確保するとともに、業務継続計画（BCP）を策定し、災害時には、病院機能を維持した上で、全ての患者に医療を提供できるよう努める。</p> <p>ただし、災害拠点病院としての機能を果たすためには、免震構造、ライフライン機能の維持、災害活動スペース等を備えることが望ましいが、現病院の施設、設備では十分でないことから、施設の老朽化対策に合わせて、将来的な施設や設備のあり方について検討していく。</p> <p>○ 八幡病院においては、国の基準に基づいて非常用電源や備蓄資材（食糧・飲料水、医薬品等）を確保し、災害時においても病院機能を維持するとともに、全ての患者に医療を提供できるよう、業務継続計画（BCP）を策定し、適切に運用する。</p>	<p>ウ 災害時における医療提供については、病院自体が被災することも想定して対応策を準備する。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <p>＜医療センター＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 国の基準に基づく非常用電源や備蓄資材の整備 ○ 業務継続計画（BCP）の適切な運用 ○ 災害に対する施設や設備のあり方の検討 <p>＜八幡病院＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 国の基準に基づく非常用電源や備蓄資材の確保 ○ 業務継続計画（BCP）の適切な運用
--	--

ウ 災害時における医療提供

災害時における医療提供について、病院自体が被災することも想定し、対応策の準備に取り組んだ。

【令和元年度の取組み】

＜医療センター＞

- 災害時の非常用電源や備蓄資材については、国の基準に基づいて必要な整備を行った。
 - ・ 上水は4日分を確保。雑用水は3日以上連続供給可能
 - ・ 電力は、自家発電機を2台設置しているほか、燃料用の重油タンクの増設を検討
 - ・ その他、食料3日分、飲料3日分、医薬品7日分、診療材料3日分のほか、医療ガスも確保
- 災害時に備え、業務継続計画（BCP）に基づいた対策の検討や訓練に取り組んだ。
 - ・ BCP委員会を毎月開催し、3月に水害版のBCPを策定
 - ・ 災害時を想定したトリアージ訓練等を実施（延べ6回）
- 災害対策を含め、医療センターの老朽化対策について、機構内部で調査・研究に着手した。
 - ・ 対応が困難となる課題の整理（地震による配管の破損、河川氾濫による主要設備の浸水等）

＜八幡病院＞

- 災害時の非常用電源や備蓄資材については、国の基準に基づいて必要な整備を行った。
 - ・ 上水は3.5日分、雑用水は3日分を確保。
 - ・ 電気は大容量自家発電機を設置。3日以上運転可能な重油を確保
 - ・ その他、食料3日分、飲料3日分、医薬品7日分、診療材料4日分のほか、医療ガスも確保
- 災害時に備え、業務継続計画（BCP）に基づいた対策の検討や訓練に取り組んだ。
 - ・ BCP委員会の開催（11月）、BCP訓練の実施（3月）

中期目標 (項目)	第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 2 各病院の特色を活かした医療の充実 (1) 医療センター
--------------	--

中期計画	年度計画
------	------

<p>(1) 医療センター</p> <p>ア がん医療について、地域がん診療連携拠点病院として、集学的治療及び標準的治療等の提供体制の充実を図るとともに、がん患者の身体的苦痛や精神心理的苦痛、社会的な問題等に対応できる体制を整備し、高度で専門的な医療を提供する。</p> <p>また、がんゲノム中核拠点病院との情報共有・連携体制の構築に努め、がんゲノム医療連携拠点病院としてがん医療の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ロボット支援下手術による低侵襲外科手術を実施するため、手術支援ロボットの導入を検討する。検討に当たっては、導入による効果を慎重に見極めることとする。 ○ 定位放射線治療や強度変調放射線治療等の高度な放射線治療を提供するため、リニアックの更新を検討する。 ○ 高精細な画像によって診断能力が向上し、より確かな診断を迅速に提供するため、磁気共鳴コンピュータ断層装置 (MRI 3.0T) の増設を検討する。 <p><関連指標> 医療センター</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">項目</th> <th style="width: 40%;">平成29年度実績</th> <th style="width: 40%;">令和元年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>がん患者数</td> <td style="text-align: center;">4,935人</td> <td style="text-align: center;">4,869人</td> </tr> <tr> <td>化学療法件数</td> <td style="text-align: center;">17,140件</td> <td style="text-align: center;">15,538件</td> </tr> <tr> <td>放射線治療件数</td> <td style="text-align: center;">12,179件</td> <td style="text-align: center;">11,781件</td> </tr> </tbody> </table> <p>イ がん患者や家族の支援機能を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 患者や家族の精神的なケアや生活面での不安・悩みに対応していくため、がん看護専門看護師及びがん分野の認定看護師の配置による「がん看護外来」の充実に取り組む。 <p>また、抗がん剤の副作用等への対策として、抗がん剤治療に関する専門知識と経験のある認定薬剤師を配置した「薬剤師外来」を開設するほか、医師・薬剤師・看護師のチーム医療により、がん患者や家族が意思決定しやすい</p>	項目	平成29年度実績	令和元年度実績	がん患者数	4,935人	4,869人	化学療法件数	17,140件	15,538件	放射線治療件数	12,179件	11,781件	<p>(1) 医療センター</p> <p>ア がん医療について、地域がん診療連携拠点病院として、集学的治療及び標準的治療等の提供体制の充実を図るとともに、がん患者の身体的苦痛や精神心理的苦痛、社会的な問題等に対応できる体制を整備し、高度で専門的な医療を提供する。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ がんゲノム中核拠点病院との連携体制等の構築 ○ がんゲノム医療を適切に提供する体制の整備 ○ 手術支援ロボットの導入の検討 ○ リニアックの積極的な活用 ○ 磁気共鳴コンピュータ断層装置の増設の検討 <p>イ がん患者や家族の支援機能を充実させる。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ がん看護外来の充実 ○ 緩和ケアセンターの開設 ○ 薬剤師外来の開設 ○ 医師・看護師等によるチーム医療の充実 ○ がん相談支援センターの充実
項目	平成29年度実績	令和元年度実績											
がん患者数	4,935人	4,869人											
化学療法件数	17,140件	15,538件											
放射線治療件数	12,179件	11,781件											

中期目標 (内容)	<p>ア がん医療について、「地域がん診療連携拠点病院」として、高度で専門的な医療を提供すること。</p> <p>イ がん患者や家族の支援機能を充実させること。</p> <p>ウ がん医療に関する地域医療機関との連携の強化に努めること。</p> <p>エ その他地域の医療状況を踏まえ、市立病院として必要とされる医療を提供すること。</p>
--------------	--

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(1) 医療センター</p> <p>ア 高度で専門的ながん医療の提供 地域がん診療連携拠点病院として、集学的治療及び標準的治療等の提供体制の充実を図るとともに、がん患者の身体的苦痛や精神心理的苦痛、社会的な問題等に対応できる体制を整備し、高度で専門的な医療の提供に努めた。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ がんゲノム中核拠点病院である九州大学病院との連携体制を構築し、エキスパートパネル（治療方針を決定する専門家会議）を円滑に開始した。 ○ 一人ひとりのがん遺伝子変異に合わせた治療等を行う「がんゲノム医療」を適切に提供するため、保険適用開始に合わせて、速やかにがんゲノム医療体制を整備した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 6月にがんゲノムセンター及びがんゲノム外来を開設し、遺伝子パネル検査を開始 ・ 11月から院外患者の受入を開始 ○ 手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入し、10月から運用を開始した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和元年度の症例数は17例（泌尿器3例、外科上部6例、外科下部8例） ・ 医療関係者や市民を対象としたPRイベントを12月に開催 ○ 平成30年度に更新したリニアックの準備を完了し、9月からIMRT（強度変調放射線治療）を開始した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 9月以降の1日平均治療件数は約40件 ○ 磁気共鳴コンピュータ断層装置の増設については、八幡病院との共同利用も想定しながら、費用対効果の調査・研究に着手した。 <p>イ がん患者や家族の支援機能の強化 患者や家族の精神的なケアや生活面での不安・悩みに対応していくため、がん患者や家族の支援機能を強化した。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ がん分野の認定看護師を配置するなど、がん看護外来の充実に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 外来看護師1名にがん性疼痛看護認定看護師の資格を取得させ、がん分野の認定看護師数は合計14名に増加 ・ がん分野の認定看護師による介人事例は1,797件。 	3	3	<p>地域がん診療連携拠点病院として、更新したリニアックによるIMRT（強度変調放射線治療）の開始や、手術支援ロボット「ダヴィンチ」の導入など高度で専門的な医療の提供するための取組みや、緩和ケアセンターや薬剤師外来の開設、チーム医療の充実など、がん患者や家族の支援機能を充実させる取り組みを進め、年度計画を順調に実施しているため、評価「3」とした。</p> <p>連携ネット北九州については、新規登録患者数が既に令和5年度の日標値を達成しており、評価できる。</p>

体制を整備するなど、がん患者や家族の支援機能の強化に取り組む。

- 医療センターの患者や家族だけでなく、他院の患者や家族の不安・悩み等の相談に応えるため、「がん相談支援センター」の周知に取り組むとともに体制強化に努める。

ウ がん医療に関する地域医療機関との連携の強化に努める。

- がん医療における医療機関の役割分担を尊重しながら連携を推進していくため、医療従事者の資質向上に向けた情報提供や研修の開催等、地域全体のレベルアップの貢献に努める。
- インターネットでカルテの閲覧やCT・MRIの予約ができる「連携ネット北九州」の活用を促進する。
- 福岡県がん地域連携クリティカルパスの普及に努める。

ウ がん医療に関する地域医療機関との連携の強化に努める。

【令和元年度の取組み】

- 医療従事者の資質向上に向けた情報提供等
- がん医療における「連携ネット北九州」の活用促進
- 福岡県がん地域連携クリティカルパスの普及

<関連指標> 医療センター

項目	平成29年度実績	令和5年度目標	令和元年度実績
連携ネット北九州新規登録患者数	558件	700件	1,186件

<p>更なる事例の増加に向けて、リンパ浮腫外来や移植後フォローアップ外来の実施を検討</p> <p>○ 多職種による支援を行うため、「緩和ケアセンター」を4月に開設し、がん看護認定看護師等3名を配置して支援機能を強化した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多職種の緩和ケアチームによるカンファレンスを毎月開催し、疼痛管理ラウンド（オピオイド回診）を8月から開始するなど、入院患者への介入事例を増加させた。 ・ 地域医療者との事例検討会（月1回）を開始したほか、緊急緩和ケア病床の利用について、地域の医療機関の登録を促進（19施設） <p>○ 抗がん剤の副作用等への対策として、抗がん剤治療に関する専門知識と経験のある認定薬剤師を配置した「薬剤師外来」を4月に開設した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ がん薬物療法と外来がん治療の認定資格を持つ薬剤師1名を配置。延べ患者1,772人に対応 <p>○ 医師・看護師等によるチーム医療を充実させるため、チーム医療に資する施設基準を複数取得するなど活動を強化した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月に呼吸ケアチームの体制強化を実施（集中ケア認定看護師の配置、6分歩行試験の実施）、3月に認知症ケアチームの体制構築に着手 <p>○ 市民や患者の不安・悩み等の相談に応えるため、「がん相談支援センター」の体制を強化した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月に看護師1名を増員し、専門相談員3名とともに相談に対応 ・ 令和元年度の相談件数は1,086件（昨年度より199件増加） ・ スクリーニング時における患者への案内、市民センターや図書館へのチラシ配布等、がん相談支援センターの周知を推進 <p>ウ がん医療に関する地域医療機関との連携強化</p> <p>医療従事者への情報提供や研修の開催等を通じて地域全体のレベルアップに努めるなど、がん医療に関する地域医療機関との役割分担と連携を推進した。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <p>○ 医療従事者の資質向上に向けて、研修会を実施したほか、国や県が実施する研修会等について、地域の医療従事者への周知に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 11月に緩和ケア研修会を実施したほか、国のせん妄対応研修会に参加 <p>○ 「連携ネット北九州」の活用促進に向けて、医療機関の訪問やチラシ郵送等によるPR活動に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3月末時点の活用医療機関数は150箇所（昨年度より53箇所増加） <p>○ 福岡県がん地域連携クリティカルパスの普及に向けて、データ分析や関連部署の協議や運用フローマニュアル作成等に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度の実績は、肺がん16件、大腸がん10件、乳がん5件 	
--	--

エ その他地域の医療状況を踏まえ、市立病院として必要とされる医療を提供する。

- 生活習慣病に対応するため、地域医療機関と連携し、糖尿病や脳卒中、循環器疾患、代謝疾患等に対応していくため、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、検査技師でのチーム医療が提供できるように体制を強化する。
- 膠原病や甲状腺疾患といった地域医療提供体制の中で十分な対応が難しい医療の提供に努める。
- 肩・肘関節疾患、スポーツ障害・脊椎疾患に対応するため、低侵襲で早期退院が可能な脊椎内視鏡手術等の脊椎手術を実施する。
- せん妄や認知症に対応するため、もの忘れ外来の開設や常勤精神科医の採用に取り組む。
- 合併症や新生児疾患の対応等、総合的医療を提供できるように常勤眼科医の採用に取り組む。
- 児童福祉法に基づく「助産施設」としての役割を担う。
- 市立病院として、市民の命と健康を守るセーフティネットの役割を果たすよう努める。

オ 医療センターにおいて、上記の医療を提供するための標榜診療科目及び病床数は、以下のとおりとする。

ただし、標榜診療科目及び病床の実際の運用については、今後の医療需要の変化や診療機能の向上等に合わせて柔軟に対応していく。

標榜診療科目	病床数
内科、心療内科、精神科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腫瘍内科、糖尿病内科、緩和ケア内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、病理診断科、麻酔科、歯科	許可病床数 636

エ その他地域の医療状況を踏まえ、市立病院として必要とされる医療を提供する。

【令和元年度の取組み】

- 生活習慣病に対応するための体制強化に向けた検討
- 膠原病や甲状腺疾患に関する医療の提供
- 脊椎内視鏡手術等の脊椎手術の実施
- せん妄や認知症に対応するための体制強化
- 合併症や新生児疾患の対応等に関する医療の提供

エ その他必要とされる医療の提供

その他地域の医療状況を踏まえ、市立病院として必要とされる医療の提供に努めた。

【令和元年度の取組み】

- 生活習慣病への対応を強化するための取組みを進めた。
 - ・ 糖尿病内科を「内分泌・糖尿病内科」に変更し、内分泌疾患、肥満症の診療体制を強化。
- 膠原病、甲状腺疾患について、専門医による外来診療を継続実施した。
- 専門医による脊椎内視鏡手術を実施するとともに、手術効率向上等のため内視鏡セットP E Dを導入した。
- 常勤精神科医の獲得（新年度に1名採用）に努めるとともに、認知症ケアチームの体制構築等に取り組んだ。
- 合併症や新生児疾患に対応するため、近隣病院等の協力を得て夜間当直応援医師を増員するなど医療提供体制を充実させた。

※ 市民や患者に分かりやすく専門分野を示すため、以下のとおり標榜診療科の変更・新設を行った。

なお、以下の変更・新設は、病院の機能を変更するものではない。

（8月）

- ・ 糖尿病内科を内分泌・糖尿病内科に変更
- ・ 消化器外科、リハビリテーション科を新設

（12月）

- ・ 肝臓内科、血液内科、感染症内科、乳腺外科、内分泌外科、大腸外科、肛門外科、肝臓外科、胆のう外科、膵臓外科、食道外科、胃腸外科を新設

標榜診療科目	病床数
内科、肝臓内科、血液内科、感染症内科、心療内科、精神科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腫瘍内科、内分泌・糖尿病内科、緩和ケア内科、小児科、外科、乳腺外科、内分泌外科、消化器外科、大腸外科、肛門外科、肝臓外科、胆のう外科、膵臓外科、食道外科、胃腸外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、病理診断科、麻酔科、歯科、リハビリテーション科	許可病床数 636

中期目標 (項目)	第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 2 各病院の特色を活かした医療の充実 (2) 八幡病院
--------------	--

中期計画	年度計画												
<p>(2) 八幡病院</p> <p>ア 小児医療について、「小児救急・小児総合医療センター」を中心に、診療機能の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 専門性の高い小児科医の確保や小児集中治療室（P I C U）・無菌室の整備等により、「救急・集中治療」「児童虐待とその家族」「血液・腫瘍性疾患」「神経疾患・てんかん、医療的ケア児」に係る専門医療の充実と在宅医療の支援に取り組む。 ○ 小児科専門医の基幹研修施設として、人材育成を通じて、診療機能の強化に取り組む。 <p><関連指標></p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th colspan="3">八幡病院</th> </tr> <tr> <th>項目</th> <th>平成29年度 実績</th> <th>令和元年度 実績</th> </tr> <tr> <td>小児科患者数（外来）</td> <td>51,681人</td> <td>51,412人</td> </tr> <tr> <td>小児科患者数（入院）</td> <td>34,156人</td> <td>37,255人</td> </tr> </table> <p>イ 小児医療に関する障害者や家族に対する医療面での支援の充実に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 障害を持つ小児患者等を一時的に預かる福岡県及び北九州市が実施主体の「小児慢性特定疾病児童等レスパイト支援事業」に参加する等支援の充実に取り組む。 <p>また、障害者やその家族が安心して生活が送れるよう医療面での支援を行う。</p>	八幡病院			項目	平成29年度 実績	令和元年度 実績	小児科患者数（外来）	51,681人	51,412人	小児科患者数（入院）	34,156人	37,255人	<p>(2) 八幡病院</p> <p>ア 小児医療について、「小児救急・小児総合医療センター」を中心に、診療機能の充実を図る。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <p><施設・設備の整備等></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 専門性の高い小児科医の確保 ○ 小児集中治療室（P I C U）・無菌室等の活用【再掲】 ○ 救急・集中治療等に係る専門医療の充実 ○ 在宅医療の支援 <p><院内体制の充実・強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小児科専門医の人材育成を通じた診療機能の強化 <p>イ 小児医療に関する障害者や家族に対する医療面での支援の充実に取り組む。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小児慢性特定疾病児童等レスパイト支援事業への参加
八幡病院													
項目	平成29年度 実績	令和元年度 実績											
小児科患者数（外来）	51,681人	51,412人											
小児科患者数（入院）	34,156人	37,255人											

中期目標 (内容)	<p>ア 小児医療について、「小児救急・小児総合医療センター」を中心に、診療機能の充実を図ること。</p> <p>イ 小児医療に関する障害者や家族に対する医療面での支援の充実に取り組むこと。</p> <p>ウ その他地域の医療状況を踏まえ、市立病院として必要とされる医療を提供すること。</p>
--------------	---

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(2)八幡病院</p> <p>ア 小児医療の診療機能の充実 小児医療について、「小児救急・小児総合医療センター」を中心に、診療機能の充実に努めた。</p> <p>【令和元年度の取組み】 <施設・設備の整備等> ○ 外部医療機関からの派遣により、様々な分野において専門性の高い小児科医を確保した。 ・ 免疫・膠原病・循環器・消化器・肝臓病・腎・代謝（久留米大学）、内分泌・代謝（産業医科大学）、神経てんかん（聖マリア病院）、アレルギー（国立病院機構福岡病院） ○ 新病院において整備した小児集中治療室（P I C U）・無菌室等を適切に活用して医療を提供した。【再掲】 ・ P I C Uは、小児患者の夜間緊急入院等に活用（稼働率50%：延患者数 1,465 人÷8床 ×366日） ・ 無菌室は、白血病等の小児がん患者を対象に活用（稼働率75%：延患者数 2,735 人÷10床×366日） ○ 救急・集中治療等については、専門性の高い小児科医の確保やP I C U等の活用等により、質の高い医療を提供した。 ○ 介護している家族の休息等を目的とした「小児慢性特定疾病児童等レスパイト支援事業」の受入れ等を行った。 ・ レスパイト支援事業の受入れ実績は1件（4月・4日間）。 ・ また、同支援事業以外においても、支援を要するかかりつけ患児に対し、レスパイト入院の受入れを実施</p> <p><院内体制の充実・強化> ○ 他病院の臨床研修医等を受入れて、将来を担う人材の育成に取り組んだ。 ・ 元年度の受入れ実績は小児科専門医1名、専攻医5名</p> <p>イ 障害者や家族への医療支援の充実 小児医療に関する障害者や家族に対する医療面での支援の充実に努めた。</p> <p>【令和元年度の取組み】 ○ 介護している家族の休息等を目的とした「小児慢性特定疾病児童等レスパイト支援事業」の受入れを行った。【再掲】 ・ レスパイト支援事業の受入れ実績は1件（4月・4日間）。 ・ また、同支援事業以外においても、支援を要するかかりつけ患児に対し、レスパイト入院の受入れを実施</p>	3	3	<p>小児医療については、新病院において整備した施設・設備を活用した診療機能の充実や、「小児疾患特定疾病児童等レスパイト支援事業」の実施など障害を持つ小児患者や家族に対する医療面での支援の充実を図る取組みを進めており、年度計画を順調に実施しているため、評価「3」とした。</p> <p>なお、心不全センターの機能が果たせる体制構築や、ハイブリッド手術室を活用した医療の提供への取組みが必要である。</p>

ウ その他地域の医療状況を踏まえ、市立病院として必要とされる医療を提供する。

- 消化器・肝臓病センターを内科・外科・放射線科等の医師、薬剤師及び看護師等で横断的に組織化し、生活習慣や食生活の変化に伴い急増する消化器・肝臓病疾患に対して最新・総合的な医療を提供する。
- 心不全センターを内科・循環器内科・形成外科等の医師、リハビリテーションスタッフ、薬剤師及び看護師等で横断的に組織化し、高齢化等に伴い急増する心不全患者に専門的な医療を提供するとともに、かかりつけ医療機関・介護施設・在宅との間を取り持つ役割を担うことで、地域全体で心不全患者を支援する体制を構築する。
- アメリカでも注目され、実践されている Acute Care Surgery（外傷急性期外科）の北九州市の中心となるべく、血管造影装置とCTを備えたハイブリッド手術室の機能を駆使して、最先端の医療を提供する。
さらに、外傷・形態修復・治療センターを外科・形成外科・整形外科等の医師、リハビリスタッフ及び看護師等で横断的に組織化し、外傷やその他の形態異常に対し機能的・整容的な再建を行うことで、患者のQOL（生活の質）の回復を目指す。
- 市立病院として、市民の命と健康を守るセーフティネットの役割を果たすよう努める。

エ 八幡病院において、上記の医療を提供するための診療科目及び病床数は、以下のとおりとする。

ただし、標榜診療科目及び病床の実際の運用については、今後の医療需要の変化や診療機能の向上等に合わせて柔軟に対応していく。

標榜診療科目	病床数
内科、精神科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、消化器外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、救急科、麻酔科、歯科	許可病床数 350

ウ その他地域の医療状況を踏まえ、市立病院として必要とされる医療を提供する。

【令和元年度の取組み】

- 消化器・肝臓病センターの積極的な活用に向けた検討
- 心不全センターの積極的な活用に向けた検討
- ハイブリッド手術室の活用
 - ・ 外傷急性期外科医療の提供
- 外傷・形態修復・治療センターの積極的な活用に向けた検討

ウ その他必要とされる医療の提供

その他地域の医療状況を踏まえ、市立病院として必要とされる医療の提供に努めた。

【令和元年度の取組み】

- 医師、看護師、薬剤師等で横断的に組織化した消化器・肝臓病センターにおいて、ハイブリット手術室を活用した医療を提供した。
- 心不全センターは、循環器内科医の不足により十分な機能が果たせていないものの、医師をはじめとする医療スタッフで心臓リハビリテーションに取り組んだ。
- ハイブリッド手術室を適切に活用し、外傷急性期外科医療の提供に努めた。
 - ・ 令和元年度の使用実績は54件
- 外傷・形態修復・治療センターにおいて、外科・整形外科・形成外科の医師、リハビリスタッフ及び看護師等の組織横断的なチームを編成して多方向からの集約的治療を実施した。

※ 市民や患者に分かりやすく専門分野を示すため、以下のとおり標榜診療科の変更・新設を行った。なお、以下の変更・新設は、病院の機能を変更するものではない。

(8月)

- ・ リハビリテーション科、臨床検査科を新設

(12月)

- ・ 内視鏡外科、肝臓外科、胆のう外科、膵臓外科を新設

標榜診療科目	病床数
内科、精神科、循環器内科、小児科、外科、内視鏡外科、消化器外科、肝臓外科、胆のう外科、膵臓外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、消化器外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、救急科、麻酔科、歯科、リハビリテーション科、臨床検査科	許可病床数 350

中期目標 (項目)	第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 医療の質の確保 (1) 人材の確保・育成
--------------	---

中期計画	年度計画
<p>(1) 人材の確保・育成</p> <p>ア 医療従事者の養成機関との連携を図るとともに、柔軟で多様な職員採用により、医師をはじめとする優秀な医療スタッフの確保に努めるとともに、医療スタッフが長く働き続けることができる職場環境の整備に努める。</p> <p>○ 医師については、大学等関係機関との連携強化や教育研修を充実させ、医師の負担軽減に向けて医師事務作業補助者を配置する等、医師が働きやすい環境づくりを行う。 また、女性医師が安心して就業の継続や復職ができる環境の整備を行う。</p> <p>○ 看護師については、計画的に安定した優秀な人材を確保するため、看護学校の学生に対する充実した教育や実習の提供等により、卒業生の人職率を高める。 また、看護師が看護業務に専念できる環境を整備するため、看護補助者の確保に努めるとともに、看護師の事務作業をサポートする職の配置やチーム医療の推進等に取り組む。 さらに、認定看護師等の資格取得に際して、十分にバックアップするとともに、その専門性が発揮できるような勤務体制を構築する。</p> <p>○ 医療技術職については、柔軟な採用制度の下、経験者を含めた多様な職種の人材確保に努める。 また、資格取得等の奨励・支援を行い、学会発表等の参加機会を確保できるよう配慮する。</p> <p>○ 事務職員については、プロパー化を進めるとともに、医療マネジメントができる事務職員を育成するため、院内教育の充実を図り、資格取得の支援に加え、セミナーや学会発表等の学習機会を提供する。 また、事務職員の総合力を強化するため、定期的な部署間の異動等、計画的な育成に取り組む。</p>	<p>(1) 人材の確保・育成</p> <p>ア 医療従事者の養成機関との連携を図りながら、柔軟で多様な職員採用により、医師をはじめとする優秀な医療スタッフの確保に努めるとともに、医療スタッフが長く働き続けることができる職場環境の整備に努める。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <p><全職種></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ リクルート活動の強化 <p><医師></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医師の負担軽減 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医師事務作業補助者の増員 ○ 女性医師の就業環境の整備に向けた調査・研究 <p><看護師></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 看護業務に専念できる環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・ 看護補助者の確保に向けた取組みの強化 ・ 事務作業サポート職の配置に向けた検討 ○ 資格取得支援のあり方の検討 ○ 柔軟な勤務体制の調査・研究 <p><医療技術職></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 経験者を含めた多様な職種の人材確保 ○ 学会発表等の参加機会確保 <ul style="list-style-type: none"> ・ 資格取得の奨励、支援制度の構築に向けた調査・研究 <p><事務職員></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ プロパー化の推進 ○ 医療マネジメントができる事務職員の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 院内教育体系の構築に向けた調査・研究 ○ 事務職員の総合力の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 育成方針、異動方針の作成に向けた調査・研究

中期目標 (内容)	<p>ア 医師をはじめとする優秀な医療スタッフの確保に努めること。</p> <p>イ 特に、医師の確保に当たっては、大学医局との連携強化、臨床研修の充実等に努めること。</p> <p>ウ 医療スタッフの専門性や医療技術向上のため、先進的な事例や取組を習得できる教育研修制度を充実させること。</p>
--------------	---

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(1) 人材の確保・育成</p> <p>ア 医療スタッフの確保、職場環境の整備 医療従事者の養成機関と連携しながら、柔軟で多様な職員採用により、医師をはじめとする優秀な医療スタッフの確保に努めるとともに、医療スタッフが長く働き続けることができる職場環境の整備に努めた。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <p><全職種></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 優秀な医療スタッフの確保に向けて、採用募集ツールを充実させたほか、就職説明会への参加や学校訪問によってリクルート活動を強化し、多様な職種の職員採用活動を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ リクルート活動として、就職説明会への参加（2回）、看護学校訪問（2回）等を実施 ・ 採用試験は、医療技術職・一般事務（1回）、看護師・助産師（4回）実施 <p><医師></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医師の負担軽減のため、医師事務作業補助者を選考の上増員した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターに2名配置（7月） ・ 八幡病院は選考継続（2名配置予定） ○ 女性医師の就業環境の整備に向けて、働き方改革の取組みと並行して調査・研究に着手した。 <p><看護師></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 看護師が看護業務に専念できる環境の整備に向けて、事務作業サポート職（病棟クラーク）を選考の上増員したほか、看護補助者の確保に努めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 看護師・助産師の随時採用により、元年度中に看護師36名、助産師3名を採用 ・ 医療センターと八幡病院に病棟クラークを2名ずつ配置（令和2年4月） ・ 看護補助者の随時採用を実施し、元年度中に24名を採用 ○ 認定看護師や特定行為研修の派遣計画を作成したほか、資格取得支援のあり方について、他病院の制度を参考に調査・研究に着手した。 ○ 時短勤務の導入など柔軟な勤務体制の導入に向けて、働き方改革の取組みと並行して調査・研究に着手した。 	3	3	<p>医療スタッフの確保や職場環境の整備などを進めており、年度計画を順調に実施しているため、評価「3」とした。</p> <p>令和元年度において調査・研究に着手した項目については、令和2年度以降において、制度や仕組みの構築に期待したい。</p>

<関連指標>

項目		平成29年度 実績	令和元年度 実績
看護実習受入数	医療センター	350人(5校)	282人
	八幡病院	249人(4校)	261人

イ 特に、医師の確保にあたっては、大学医局との連携強化、臨床研修の充実に努める。

- 大学医局等からの医師確保、病院運営への協力等に向けて、関係大学との連携強化の仕組みづくりに取り組む。
- 病院機能の特性を生かした魅力ある臨床研修プログラムや専門研修プログラムの充実、指導体制の整備により、病院の将来を担う医師の育成に努める。

イ 特に、医師の確保にあたっては、大学医局との連携強化、臨床研修の充実に努める。

【令和元年度の取組み】

- 関係大学との連携強化の仕組みづくり
- 臨床研修プログラムや専門研修プログラムの充実
- 病院の将来を担う医師の育成

<関連指標>

項目		平成29年度 実績	令和元年度 実績
専門医資格取得件数	医療センター	167件	105件
	八幡病院	95件	121件
指導医資格取得件数	医療センター	140件	246件
	八幡病院	62件	42件
初期臨床研修医	医療センター	7人	10人
	八幡病院	4人	4人
専攻医	医療センター	23人	22人
	八幡病院	10人	9人

<医療技術職>

- 柔軟な職員採用により、経験者を含めた多様な職種の人材を確保した。
 - ・ 医療センターでは、薬剤師4名、臨床検査技師5名、臨床放射線技師5名、臨床工学技士2名、栄養士2名、医療ソーシャルワーカー3名、理学療法士6名、作業療法士2名を採用（令和2年4月）
 - ・ 八幡病院では、薬剤師9名、臨床検査技師7名、臨床放射線技師9名、臨床工学技士5名、管理栄養士7名、医療ソーシャルワーカー10名、理学療法士7名、作業療法士3名を採用（令和2年4月）
- 資格取得支援制度の構築に向けて、働き方改革の取組みと並行し、他病院の制度を参考に調査・研究に着手した。

<事務職員>

- 診療情報管理士や医療事務職員を採用するとともに、市派遣職員を減少させるなど、事務職員のプロパー化を推進した。
 - ・ 来年度は、診療情報管理士、医療事務職員、システムエンジニアなど17名を採用（令和2年4月）
- 事務職員の教育制度や育成・異動方針について、他病院の制度を参考に調査・研究に着手した。

イ 大学医局との連携強化等

特に、医師の確保にあたっては、大学医局との連携強化、臨床研修の充実に努めた。

【令和元年度の取組み】

- 関係大学との連携強化に向けて、理事長、病院長等による訪問活動を積極的に実施した。
 - ・ 九州大学、産業医科大学、福岡大学、久留米大学等を延べ47回訪問
- 医療センター、八幡病院ともに、臨床研修や専門研修プログラムを充実させたほか、臨床研修医の募集定員拡大に向けて関係機関等への働きかけを行った。

ウ 医療スタッフの専門性や医療技術向上のため、各専門分野における医療スタッフの資格取得支援する制度の充実に努めるとともに、先進的な事例や取組みを習得できる教育研修制度を充実させる。

- 医療センターにおいては、習熟レベルに応じた研修プログラムの充実と教育担当者の配置、研修体系の一元管理の整備など計画的な人材育成の推進と知識・技術の向上に取り組む。

特に、がん看護に特化した専門看護師の育成と高い臨床推論力と病態判断力を持って急性期医療、地域医療に貢献できる特定行為研修を修了した認定看護師の育成に取り組む。

- 八幡病院においては、今後の高齢化の進展を見据え「慢性心不全看護」「慢性呼吸器疾患看護」の認定看護師資格の取得を目指すとともに、「感染管理」「皮膚・排泄ケア」の認定看護師資格の取得者の増員に取り組む。

また、院内では、看護師の専門性向上のため、経験年数別・役割別・職種別の研修を実施するとともに、他職種についても新たな研修制度の構築に取り組む。

ウ 医療スタッフの専門性や医療技術向上のため、各専門分野における医療スタッフの資格取得を支援する制度の充実に努めるとともに、先進的な事例や取組みを習得できる教育研修制度を充実させる。

【令和元年度の取組み】

- 医師を含む医療スタッフの資格取得を支援する制度の構築に向けた調査・研究

- 教育研修制度の構築に向けた調査・研究

＜医療センター＞

- ・ 習熟レベルに応じた研修プログラムの検討
- ・ 看護師に対する教育担当者の配置
- ・ 研修体系の一元管理の整備
- ・ がん看護に特化した専門看護師の育成
- ・ 特定行為研修を修了した認定看護師の育成

＜八幡病院＞

- ・ 慢性心不全看護の認定看護師資格の取得に向けた取組み
- ・ 感染管理の認定看護師資格の取得者の増員に向けた取組み
- ・ 皮膚・排泄ケアの認定看護師資格の取得者の増員に向けた取組み
- ・ 看護師の経験年数別等の研修の実施

＜関連指標＞

項目		平成29年度 実績	令和元年度 実績
専門看護師	医療センター	0人	0人
	八幡病院	0人	0人
認定看護師	医療センター	20人	21人
	八幡病院	13人	17人
診療情報管理士数	医療センター	5人	11人
	八幡病院	3人	2人

ウ 資格取得支援制度等の充実

医療スタッフの専門性や医療技術向上のため、各専門分野における医療スタッフの資格取得を支援する制度や、先進的な事例や取組みを習得できる教育研修制度の充実に取り組んだ。

【令和元年度の取組み】

- 医療スタッフの資格取得を支援する制度の構築に向けて、働き方改革の取組みと並行して調査・研究に着手した。
- 機構としての教育研修制度の構築に向けて、他病院の制度を参考に、調査・研究に着手した。

<医療センター>

- ・ 日本看護協会が提示するクリニカルラダーを参考に、習熟レベルに応じた研修プログラムの検討を実施
- ・ 看護単位ごとに教育担当者を設定し、新人の育成状況や育成方針等を看護部全体で共有
- ・ 研修体系の整備に向けて研修計画の策定や研修管理委員会の設置準備を実施
- ・ 所属看護師（1名）が、がん性疼痛看護認定看護師の課程を修了
- ・ 特定行為研修を含む認定看護師の育成に向けて次年度の研修派遣（3名）を決定

<八幡病院>

- ・ 慢性心不全看護の認定看護師資格の取得に向けて、看護師1名を教育機関へ派遣
- ・ 感染管理の認定看護師資格の取得者が1名増員となり、院内の感染管理対策が向上
- ・ 皮膚・排泄ケアの認定看護師資格の取得者を病棟に1名配置
- ・ クリニカルラダーの導入に向けた検討

中期目標 (項目)	第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 医療の質の確保 (2) 医療の質の確保・向上
--------------	---

中期計画	年度計画
------	------

(2) 医療の質の確保、向上 ア 医療の多様化・複雑化に対応するため、医療スタッフが診療科や職域を越えて連携できる「チーム医療」の推進に取り組む。	(2) 医療の質の確保、向上 ア 医療の多様化・複雑化に対応するため、医療スタッフが診療科や職域を越えて連携できる「チーム医療」の推進に取り組む。 【令和元年度の取組み】 ○ 早期離床・リハビリテーションの実施 ○ 重点診療領域のセンター化に向けた協議
--	---

<関連指標>

医療チーム編成状況（平成29年度及び令和元年度実績）

医療センター	八幡病院
緩和ケア	
認知症ケア	認知症ケア
感染防止対策	感染防止対策
栄養サポート	栄養サポート
医療安全管理	医療安全管理
呼吸ケアサポート	呼吸ケアサポート
褥瘡（じょくそう）管理	褥瘡（じょくそう）管理

イ 良質な医療を効率的に提供するため、クリニカルパスの活用等による医療の標準化に取り組む。

イ 良質な医療を効率的に提供するため、クリニカルパスの活用等による医療の標準化に取り組む。

【令和元年度の取組み】

- パス件数、パス適用率の向上
- パスの積極的な活用のための仕組みづくり

<関連指標>

項目		平成29年度 実績	令和元年度 実績
クリニカルパス件数	医療センター	185件	229件
	八幡病院	127件	218件
クリニカルパス適用率	医療センター	22.4%	26.6%
	八幡病院	18.1%	20.5%

※ クリニカルパス適用率＝ クリニカルパス適用入院患者数÷新入院患者数

中期目標 (内容)	<p>ア 医療の多様化や複雑化に対応するため、医療スタッフが診療科や職域を超えて連携できる「チーム医療」の推進に取り組むこと。</p> <p>イ 良質な医療を効率的に提供するため、クリニカルパスの活用等による医療の標準化に取り組むこと。</p> <p>ウ 医療需要の変化や医療の高度化に的確に対応するため、法人の経営状況を踏まえつつ、高度な医療機器の整備、更新等を計画的に進めること。</p>
--------------	--

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(2) 医療の質の確保・向上</p> <p>ア チーム医療の推進 医療の多様化・複雑化に対応するため、医療スタッフが診療科や職域を超えて連携できる「チーム医療」の推進に取り組んだ。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各病院において、医師、看護師、理学療法士等の多職種がチームとして連携し、集中治療室における早期離床・リハビリテーションに取り組んだ。 ○ 重点診療領域については、患者や家族にスムーズに医療が提供できるよう、センター化に向けて取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、「緩和ケア」のセンター化 を実施 ・ 八幡病院では、「小児血液腫瘍・細胞移植」のセンター化に向けて診療体制を充実 <p>イ クリニカルパスの活用等良質な医療を効率的に提供するため、クリニカルパスの活用等による医療の標準化に努めた。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各病院において、パス件数、パス適用率の向上に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、産科31件、外科5件、耳鼻咽喉科1件の見直しを実施。産婦人科で7件の新規パスを作成 ・ 八幡病院では、小児科、形成外科、泌尿器科で新規パスの作成に着手 ○ パスの積極的な活用に向けて、各病院において、医療スタッフへのアンケートを実施したほか、パス委員会で改善点や見直し等を協議した。 	3	3	<p>「チーム医療」の推進や高度な医療機器の整備、更新を進めており、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。</p>

<p>ウ 医療需要の変化や医療の高度化に的確に対応するため、法人の経営状況を踏まえつつ、高度な医療機器の整備・更新等を計画的に進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医療センターにおいては、患者への低侵襲な手術を推進するため、手術支援ロボットの導入を検討するとともに、「リニアック」を活用し、患者への負担が少ない放射線治療を推進する。 ○ 八幡病院においては、ハイブリッド手術室の機能を駆使して、最先端の医療を提供するとともに、小児集中治療室（P I C U）・無菌室を活用し、小児重症患者の診療体制を強化する。 	<p>ウ 医療需要の変化や医療の高度化に的確に対応するため、法人の経営状況を踏まえつつ、高度な医療機器の整備・更新等を計画的に進める。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <p><医療センター></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ リニアックの積極的な活用【再掲】 ○ 手術支援ロボットの導入の検討【再掲】 ○ 磁気共鳴コンピュータ断層装置の増設の検討【再掲】 <p><八幡病院></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ハイブリッド手術室の活用【再掲】 ○ 小児集中治療室（P I C U）・無菌室等の活用【再掲】
<p>エ その他、医療の質の確保、向上に向けて、病院機能評価等の第三者機関による評価制度を積極的に活用するとともに、クリニカルインディケータ（臨床評価指標）等の分析・評価の活用に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医療センターにおいては、がんゲノム医療連携拠点病院として、十分にその機能を発揮していくため、国際規格 I S O 1 5 1 8 9 の認定を目指す。 	<p>エ その他、医療の質の確保、向上に向けて、病院機能評価等の第三者機関による評価制度を積極的に活用するとともに、クリニカルインディケータ（臨床評価指標）等の分析・評価の活用に取り組む。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <p><医療センター></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 第三者機関による評価制度の活用 ○ クリニカルインディケータの活用に向けた検討 ○ 国際規格 I S O 1 5 1 8 9 の認定に向けた取組み <p><八幡病院></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 第三者機関による評価制度導入に向けた検討

ウ 高度医療機器の計画的な整備・更新等医療需要の変化や医療の高度化に的確に対応するため、法人の経営状況を踏まえつつ、高度な医療機器の整備・更新等を計画的に進めた。

【令和元年度の取組み】

<医療センター>

- 平成30年度に更新したリニアックの準備を完了し、9月からIMRT（強度変調放射線治療）を開始した。【再掲】
 - ・ 9月以降の1日平均治療件数は約40件
- 手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入し、10月から運用を開始した。【再掲】
 - ・ 令和元年度の症例数は17例（泌尿器3例、外科上部6例、外科下部8例）
- 磁気共鳴コンピュータ断層装置の増設については、八幡病院との共同利用も想定しながら、費用対効果の調査・研究に着手した。

<八幡病院>

- ハイブリッド手術室を適切に活用し、外傷急性期外科医療の提供に努めた。【再掲】
 - ・ 令和元年度の使用実績は54件
- 新病院において整備した小児集中治療室（PICU）
 - ・ 無菌室等を適切に活用して医療を提供した。【再掲】
 - ・ 稼働率は、PICU50%、無菌室75%

エ 第三者機関による評価制度の活用

その他、医療の質の確保、向上に向けて、病院機能評価等の第三者機関による評価制度を積極的に活用するとともに、クリニカルインディケータ（臨床評価指標）等の分析・評価の活用に取り組んだ。

【令和元年度の取組み】

<医療センター>

- 病院機能評価の中間評価に向けて、令和2年度から、改善取組状況の進捗確認を行う。
- クリニカルインディケータの活用に向けて、データ管理や役割分担等の準備に取り組んだ。
- がんゲノム医療連携拠点病院として、国際規格ISO15189の認定に向けた調査・研究に着手した。

<八幡病院>

- 病院機能評価制度の導入に向けて、医療センターを参考に調査・研究に着手した。

中期目標 (項目)	第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 医療の質の確保 (3) 医療安全の徹底
--------------	--

中期計画	年度計画
<p>(3) 医療安全の徹底</p> <p>安全で安心な医療を提供するため、医療事故や院内感染など医療の安全を脅かす事象に関する情報収集・分析を行い、適切な予防策を講じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 八幡病院において、市保健所と連携して地域感染対策を実践するため、地域医療機関での院内感染発生時の対応支援や地域医療従事者への教育・研修等を行う。 ○ 院内ラウンドや医療安全研修会等を実施し、医療事故や院内感染など医療の安全を脅かす事象の予防に取り組む。 ○ インシデント・アクシデントレポートを適切に分析し、再発防止に努める。 ○ 国内外における感染情報の収集に努める。 	<p>(3) 医療安全の徹底</p> <p>安全で安心な医療を提供するため、医療事故や院内感染など医療の安全を脅かす事象に関する情報収集・分析を行い、適切な予防策を講じる。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 院内ラウンドや医療安全研修会等の実施 ○ インシデント・アクシデントレポートの分析 ○ 国内外における感染情報の収集 ○ 地域医療従事者への教育・研修等の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域感染対策研修センターの開設に向けた取組み ○ 機構全体の危機管理体制の構築

<関連指標>

項目		平成29年度 実績	令和元年度 実績
研修等実施回数	医療センター	60回	56回
	八幡病院	74回	59回
インシデント・アクシデント レポート提出回数	医療センター	1,450回	1,424回
	八幡病院	1,069回	1,252回

中期目標 (内容)	安全で安心な医療を提供するため、医療事故、院内感染等の医療の安全を脅かす事象に関する情報収集、分析を行い、適切な予防策を講じること。
--------------	--

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(3) 医療安全の徹底</p> <p>安全で安心な医療を提供するため、医療事故や院内感染など医療の安全を脅かす事象に関する情報収集・分析を行い、適切な予防策を講じた。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 八幡病院において、地域感染対策研修センターを4月に開設したほか、市保健福祉局と連携し、地域の医療関係者や行政職員を対象に、新型コロナウイルスを含めた感染防止対策研修を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染対策研修会（2回）、感染対策セミナー（3回）、市職員向け感染対策研修会（3回）を実施 ○ 各病院において、院内ラウンドや医療安全研修会を定期的実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、医療安全管理室等のラウンドを毎月実施、医療安全研修を4回開催 ・ 八幡病院では、医療安全管理室等のラウンドを毎月実施、医療安全研修を4回開催 ○ 各病院において、医療事故等の再発防止に向けて、インシデント・アクシデントレポートの分析を適切に実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、7例のインシデントに多職種参加のRCA分析（根本原因分析）を実施。分析結果を防止対策に反映しマニュアルや手順を変更 ・ 八幡病院では、転倒転落インシデントの分析にあたりオカレンス（特に重篤な予期せぬ有害事象）報告の導入を検討 ○ 各病院において、関係機関等からの感染情報を収集し、職員に情報提供を行った。特に、新型コロナウイルス感染症については、国内外の最新情報を収集し、機構全体での共有に努めた。 ○ 機構全体の危機管理体制の構築に向けて、他病院の制度を参考に調査・研究に着手した。 	3	3	医療安全に関連して、年度計画を順調に実施していることから評価「3」とした。

中期目標 (項目)	第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 医療の質の確保 (4) 医療に関する調査・研究
--------------	--

中期計画	年度計画
(4) 医療に関する調査・研究 高度で先進的な医療の提供に向けて、医療に関する調査・研究に積極的に取り組む。	(4) 医療に関する調査・研究 高度で先進的な医療の提供に向けて、医療に関する調査・研究に積極的に取り組む。 【令和元年度の取組み】 ○ 治験・研究医療の推進 ○ 治験等の推進に向けた体制整備

<関連指標>

項目		平成29年度実績	令和元年度実績
治験等実施件数	医療センター	96件	109件
	八幡病院	35件	31件

※ 治験等実施件数には臨床研究実施件数及び公的調査研究件数を含む。

中期目標 (内容)	高度で先進的な医療の提供に向けて、医療に関する調査、研究に積極的に取り組むこと。
--------------	--

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(4) 医療に関する調査・研究</p> <p>高度で先進的な医療の提供に向けて、医療に関する調査・研究に積極的に取り組んだ。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各病院において、臨床研究等の受託を拡充するための準備に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、初めての医師主導治験（呼吸器内科）を承認した。 ・ 八幡病院では、企業からの奨学寄附金の受入体制の準備を進めた。 ○ 治験・臨床研究の推進に向けて、治験・臨床研究に関する施設や設備を充実させたほか、専任職員の確保など体制強化に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターにおいて、治験等に必要な施設や設備の拡充を実施 ・ 専任職員として、治験コーディネーター担当係長の公募を実施し、新年度からの採用を決定 ・ 機構全体で治験・臨床研究を推進するため、医療センターへの「臨床研究推進室」の設置を決定 ・ 医療センターと八幡病院の治験審査委員会（IRB）の一本化に向けて準備を実施 	3	3	<p>医療に関する調査・研究に積極的に取り組むため体制強化を進めるなど、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。</p>

中期目標 (項目)	<p>第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項</p> <p>4 市民・地域医療機関からの信頼の確保</p> <p>(1) 患者サービスの向上</p>
--------------	---

中期計画	年度計画
<p>(1) 患者サービスの向上</p> <p>① 患者目線での病院運営の徹底</p> <p>ア 患者や家族のニーズを的確に把握し、市民から信頼される病院を目指す。</p> <p>また、患者中心の医療提供を行うため、接遇研修を抜本的に見直すなど、患者目線に立ったサービスの提供に努める。</p> <p>特に、看護については病室やベッドサイドで看護記録やカンファレンス等を行うセル看護方式やパートナーシップ・ナーシングシステム（PNS）の導入等、可能な限り患者に寄り添う看護の提供に取り組む。</p> <p>イ 職員が患者満足度調査等の情報を共有し、病院全体で患者満足度の向上に努める。</p> <p>患者満足度調査の手法も含めて抜本的に見直すとともに、患者ニーズを的確に把握し、課題等に対して適切な改善策を講じる。</p> <p>また、現在、特に不満の多い「受付・診察の待ち時間」の短縮に向けて、各病院において以下の取組を進める。</p> <p>医療センターにおいては、診療予約時間に基づいて中央処置室での採血や採尿の受付時間を設定するなどの混雑緩和の取組を進める。</p> <p>八幡病院においては、自動精算機・診察待ち順番表示設備の導入、問診・脈拍測定等の診察前実施に取り組む。</p>	<p>(1) 患者サービスの向上</p> <p>ア 患者目線での病院運営の徹底</p> <p>市民から信頼される病院を口指して、患者や家族のニーズを的確に把握するとともに、職員が患者満足度調査等の情報を共有し、病院全体で患者満足度の向上に努める。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <p><患者ニーズの把握></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 患者満足度調査手法の抜本的な見直しに向けた検討 <p><患者サービスの改善></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 接遇研修の抜本的な見直しに向けた検討 ○ 患者に寄り添う新たな看護方式の検討・試行 ○ 受付・診察の待ち時間の短縮に向けた取組み <p><新たな患者サービスの検討></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ボランティアの導入に向けた検討 ○ 外国人患者の受入れに向けた検討

中期目標 (内容)	① 患者日線での病院運営の徹底 ア 患者や家族のニーズを的確に把握し、市民から信頼される病院を目指すこと。 イ 職員が患者満足度調査等の情報を共有し、病院全体で患者満足度の向上に努めること。
	② 快適な院内環境の整備 ア 施設や設備面での快適性を向上させること。 イ 患者や家族の利便性を向上させること。
	③ 患者や市民への情報提供 ア 診療内容、治療実績等の情報発信に積極的に取り組むこと。 イ 市民の健康増進に向けた取組を進めること。

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(1) 患者サービスの向上</p> <p>ア 患者日線での病院運営の徹底 市民から信頼される病院を目指して、患者や家族のニーズを的確に把握するとともに、職員が患者満足度調査等の情報を共有し、病院全体で患者満足度の向上に努めた。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <p>＜患者ニーズの把握＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 患者や家族のニーズを的確に把握するため、患者満足度調査手法の見直しに向けて、他病院の手法を参考に調査・研究に着手した。 <p>＜患者サービスの改善＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 接遇研修の見直しに向けて、働き方改革の取組みと並行して、他病院の制度等を参考に調査・研究に着手した。 ○ 各病院の看護部において、セル看護方式やPNSの導入に向けて、マニュアル作成やモデル病棟での試行を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、セル看護方式とPNSをモデル病棟で試行実施 ・ 八幡病院では、PNSをモデル病棟で試行実施 ○ 各病院において、院内のレイアウト変更や設備等の整備により、受付・診察の待ち時間の短縮に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、受付のレイアウト変更、逆紹介検索用タブレット端末の設置、外来機能分化に関する掲示等を実施。これらにより、外来待ち時間や病院滞在時間が短縮。 ・ 八幡病院では、新病院で自動精算器や診察待ち順番表示設備を導入したほか、入院予約患者の事前問診を実施。これらにより、受付・診察の待ち時間に関する患者の不満が軽減。 <p>＜新たな患者サービスの検討＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新たな患者サービスとして、ボランティアの導入や外国人患者の受入れに向けて、他病院の事例を参考に、調査・研究に着手した。 	3	3	患者ニーズの把握や院内環境の整備、診療内容や治療実績等の情報発信などへ取り組み、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。

<関連指標>

項目	医療センター		八幡病院	
	平成29年度 実績	令和元年度 実績	平成29年度 実績	令和元年度 実績
接遇研修回数	23回	17回	10回	10回
研修参加延人数	274人	115人	260人	122人
患者満足度 調査結果	入院	3.9点	4.2点	4.4点
	外来	3.6点	3.5点	4.1点

※ 病院で入院・外来ごとにアンケートを実施。各項目について5段階で評価

② 快適な院内環境の整備

ア 院内環境の改善により施設・設備面での快適性の向上に取り組む。

○ 医療センターにおいては、消化器疾患全般について、内科・外科が連携し、よりシームレスで総合的な診療を提供する消化器センターの開設や、婦人科、乳腺内分泌外科を中心とした女性専用病棟の開設等病棟機能の集約化に取り組む。

○ 八幡病院においては、患者や家族がくつろげる中庭やファミリールーム等新たに整備した施設・設備を適切に活用し、より一層の快適性と利便性の向上に取り組む。

イ 患者や家族の利便性の向上に向けて、自動精算機や診察待ち順番表示設備の導入待ち時間短縮に向けた取り組みを推進する。

また、入退院センター等について、メディカルソーシャルワーカー、看護師、事務職員等の人員配置を強化するなど、患者やその家族の支援機能の強化に取り組む。

イ 快適な院内環境の整備

院内環境の改善により、院内体制の充実・強化や施設・設備の整備等により、患者や家族の快適性や利便性の向上に取り組む。

【令和元年度の取組み】

<院内体制の充実・強化>

- 消化器センターの開設に向けた検討
- 女性専用病棟の開設
- 入退院センターの体制強化

<施設・設備の整備等>

- 中庭やファミリールームの活用
- 自動精算機や診察待ち順番表示設備の導入に向けた取組み

イ 快適な院内環境の整備

院内環境の改善に向けて、院内体制の充実・強化や施設・設備の整備等に取り組んだ。

【令和元年度の取組み】

<院内体制の充実・強化>

- 患者や家族の利便性向上のため、医療センター5階南病棟において、消化器系の専門病棟として「消化器センター」を平成31年2月に開設した。
- 患者のニーズに対応するため、医療センター6階北病棟において、乳腺外科、産婦人科、泌尿器科による「女性専用病棟」を平成31年2月に開設した。
- 患者サービスの向上に向けて、各病院において、人退院センターの体制強化に取り組んだ。
 - ・ 医療センターでは、院内にプロジェクトチームを設置して検討を行い、多職種が介入して患者支援を行う「患者支援センター」を10月に開設
 - ・ 八幡病院では、4月に入院センターを試行的に開設し、業務改善しながら運用を実施

<施設・設備の整備等>

- 患者や家族の快適性・利便性向上に向けて、八幡病院の中庭やファミリールームを活用し、イベントや交流会を開催した。
 - ・ ファミリールームにおいて季節に応じたイベントを開催(月1回)、中庭でのイルミネーションの実施
- 患者サービスの向上に向けて、外来診察待ち時間を短縮するため、医療センターにおいて、順番表示設備の導入の検討を行った。
※すでに、自動精算機は両病院、順番表示設備は八幡病院に導入済み

③ 患者や市民への情報提供

ア 診療内容や治療実績等の情報発信に積極的に取り組む。

- ホームページや広報誌を通じて、診療内容や治療実績等を積極的に情報発信するとともに、SNS等のソーシャルメディアを積極的に活用する。

イ 市民の健康増進に向けた取り組みを進める。

ウ 患者や市民への情報提供

診療内容や治療実績等の情報発信に積極的に取り組むとともに、市民の健康増進に向けた取り組みを進める。

【令和元年度の取り組み】

- 診療内容や治療実績等の情報発信
- ホームページの見直し
- 各種PRツールの整備
- ソーシャルメディアの活用に向けた取り組み
- 市民向け健康講座等の充実

<関連指標>

項目		平成29年度 実績	令和元年度 実績
広報誌等発行回数	医療センター	8回	5回
	八幡病院	8回	8回
市民向け健康講座等 開催件数	医療センター	13回	20回
	八幡病院	30回	35回

※ 市民向け健康講座等開催件数は、市民向けに実施した公開講座や出前講演等。

<p>ウ 患者や市民への情報提供</p> <p>診療内容や治療実績等の情報発信に積極的に取り組むとともに、市民の健康増進に向けた取組みを進めた。</p> <p>また、機構全体の広報機能強化に向けて、機構本部への広報専任組織を設置する準備を進めた。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 患者や市民への情報提供の充実に向けて、各病院において、パンフレットやホームページで診療内容や治療実績等の情報発信に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、広報誌「輪」を年4回発行。ホームページで最新情報を随時更新 ・ 八幡病院では、広報誌「やはた病院ニュース」を年4回発行。ホームページで最新情報を随時更新 ○ 機構全体で総合的な情報発信を行うため、4月にホームページを開設。CMS（コンテンツマネジメントシステム）方式を採用し、随時最新情報の発信に努めた。 ○ 機構の理念等を示すシンボルマークを策定したほか、各病院において、各診療科の医師や診療内容・実績等を紹介するパンフレットやリーフレットを製作した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 機構本部では、11月に職員の意見を反映した基本理念とシンボルマークを策定 ・ 医療センターでは、各診療科の医師や診療内容・実績等を紹介するパンフレットを7月に製作 ・ 八幡病院では、各診療科の医師や診療内容・実績等を紹介するパンフレットを10月に製作。呼吸器内科の取組みを紹介したリーフレットを10月に製作 ○ 診療内容等を広く発信するため、各種のソーシャルメディアを活用して情報発信に努めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、フェイスブック、インスタグラムを活用して病院の取組みや診療科の紹介等の情報を発信 ・ 八幡病院では、フェイスブックを活用して小児医療等の情報を発信 ○ 市民の健康増進に向けて、各病院において、企業・団体への出前講演や市民公開講座を積極的に開催した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、心臓病や下肢静脈瘤などをテーマにした市民公開講座を9回実施したほか、企業・団体向けの出前講演を11回実施 ・ 八幡病院では、肝炎や変形性股関節症などをテーマにした市民公開講座を2回実施したほか、企業・団体向けの出前講演を33回実施 			
--	--	--	--

中期目標 (項目)	第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 4 市民・地域医療機関からの信頼の確保 (2) 地域の医療機関等との連携
--------------	---

中期計画	年度計画
(2) 地域医療機関等との連携 ア 地域医療機関のニーズと役割を把握し、地域医療機関に信頼される病院を日指す。 ○ 地域医療機関へのヒアリングやアンケートの実施により、信頼の確保に努めるとともに、医療連携室の機能強化により、急性期医療を要する患者の地域医療機関からの紹介と慢性・軽症患者の地域医療機関への逆紹介を推進する。 ○ 福岡県地域医療構想調整会議での議論や地域の医療機関のニーズを踏まえ、適切な機能分化・役割分担の構築に努める。	(2) 地域医療機関等との連携 ア 地域医療機関のニーズと役割を把握し、地域医療機関に信頼される病院を日指す。 【令和元年度の取組み】 ○ 地域医療機関へのヒアリングやアンケートの実施 ○ 医療連携室の機能強化 ○ 紹介率・逆紹介率の向上 ○ 近隣病院との機能分化・役割分担に向けた検討

<関連指標及び目標>

項目		平成29年度 実績	令和5年度 目標	令和元年度 実績
紹介率	医療センター	86.6%	90.0%	85.2%
	八幡病院	67.1%	70.0%	63.6%
逆紹介率	医療センター	68.0%	80.0%	81.3%
	八幡病院	96.7%	100.0%	82.3%

※ 紹介率＝紹介患者数÷(初診患者数－救急車搬送初診患者数－時間外初診患者数)×100

※ 逆紹介率＝逆紹介患者数÷(初診患者数－救急車初診搬送患者数－時間外初診患者数)×100

中期目標 (内容)	<p>ア 地域の医療機関のニーズと役割を把握し、地域の医療機関に信頼される病院を日指すこと。</p> <p>イ 地域医療支援病院として求められる役割を着実に果たすこと。</p> <p>ウ 医療センターと八幡病院の機能分化や連携を深めること。</p>
--------------	--

実績及び法人自己評価		北九州市評価	
取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
<p>(2) 地域の医療機関等との連携</p> <p>ア 地域医療機関のニーズと役割の把握等</p> <p>地域医療機関のニーズと役割を把握し、地域医療機関に信頼される病院を目指して取り組んだ。</p> <p>【令和元年度の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域医療機関のニーズを把握するため、各病院において、診療所へのヒアリングやアンケートの実施に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、延べ約 1,509 件の医療機関を訪問して苦情や要望を収集したほか、地域医療機関へのアンケートを実施して課題等を把握 ・ 八幡病院では、延べ約 71 件の地域医療機関を訪問したほか、アンケートの実施に向けた検討に着手 ○ 地域の医療機関等との連携強化に向けて、各病院の医療連携室において、専任スタッフを増員するなど、令和 2 年度からの体制強化を進めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、医療ソーシャルワーカー 4 名、嘱託看護師 3 名、看護師長・事務係長・事務員各 1 名、計 10 名増員 ・ 八幡病院では、4 月より看護師・社会福祉士を 2 名増員し、5 月より事務係長を 1 名増員 ○ 紹介率と逆紹介率の向上に向けて、各病院において、近隣医療機関への訪問・要請活動等に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療センターでは、地域医療機関への訪問（延べ 427 件）、紹介患者の救急受入れ拡大、返書管理システムの運用等を実施 ・ 八幡病院では、地域医療機関への訪問（延べ 71 件）等を実施 ・ 医療センターでは、診療所訪問活動の効果等により紹介率（前年度 82.1%）が増加、逆紹介率（前年度 81.7%）は横ばい ・ 八幡病院では、新病院効果による初診患者の増加等により、紹介率（前年度 65.0%）、逆紹介率（前年度 95.4%）ともに減少 ○ 福岡県地域医療構想の実現に向けて、近隣病院との機能分化・役割分担を進めていくため、地域医療機関の意見・要望の集約に努めた。 	3	3	<p>地域の医療機関等との連携推進に向け、医療連携室の体制強化を進めるなど、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。</p> <p>紹介率については、医療センター（平成 29 年度：86.6% → 令和元年度：85.2%）、八幡病院（平成 29 年度：67.1% → 令和元年度：63.6%）とともに減少していることから、目標に向けて紹介率を高めていく必要がある。</p>

イ 地域医療支援病院として求められる役割を着実に果たす。

- 地域医療支援病院として、紹介患者に対する医療提供、医療機器の共同利用を通じて地域医療を担うかかりつけ医等に対する支援を行う。
- 大腿骨近位部骨折や脳卒中については、地域医療機関との連携の下に策定した地域連携クリティカルパス（北九州標準モデル）の普及に努める。
また、がんについては、福岡県地域連携クリティカルパスの普及に努める。
- 地域の医療機関を対象に地域連携会を中心とした情報交換体制の充実に努める。

イ 地域医療支援病院として求められる役割を着実に果たす。

【令和元年度の取組み】

- 医療機器の共同利用等の実績の向上
- かかりつけ医等に対する支援
- 「連携ネット北九州」の活用促進【再掲】
- 地域連携クリティカルパスの普及
- 福岡県がん地域連携クリティカルパスの普及【再掲】
- 地域連携会を中心とした情報交換体制の充実に努める

<関連指標及び目標>

項目		平成29年度 実績	令和5年度 目標	令和元年度 実績
共同利用件数 (高額医療機器)	医療センター	1,433件	1,500件	1,274件
	八幡病院	798件	900件	710件
共同利用件数 (開放病床)	医療センター	51件	60件	35件
	八幡病院	74件	100件	71件
地域医療従事者 研修実施回数	医療センター	12回	12回	9回
	八幡病院	12回	20回	17回
登録医療機関件数	医療センター	615件	620件	588件
	八幡病院	221件	230件	220件
地域医療連携会議 参加人数	医療センター	640人	—	545人
	八幡病院	377人	—	393人

イ 地域医療支援病院としての役割

地域医療支援病院として求められる役割を着実に果たすよう努めた。

【令和元年度の取組み】

- 医療機器の共同利用等の実績向上に向けて、地域医療機関への訪問やホームページ、広報誌等を通じた広報活動等に取り組んだ。
 - ・ 医療センターでは、地域医療機関の訪問や広報活動に加え、外部委員の参加による運営委員会の開催（6月）、連携ネット北九州のデモンストレーション（7月）等を実施
 - ・ 八幡病院では、地域医療機関の訪問や広報活動に加え、地域医療支援病院運営委員会において高度医療機器のプレゼンテーション（10月）等を実施
- かかりつけ医に対する支援の充実に向けて、各病院において、紹介患者の優先的な対応や医療従事者向けの研修会の開催等に取り組んだ。
 - ・ 医療センターでは、紹介患者の予約診療時間枠を拡大したほか、連携ネット北九州による予約システムの導入を検討
 - ・ 八幡病院では、在宅療養後方支援病院の推進のため、かかりつけ医等の登録を進めたほか、医師や看護師による医療従事者向けの研修会を実施
- 「連携ネット北九州」の活用促進に向けて、医療機関の訪問やチラシ郵送等によるPR活動に取り組んだ。【再掲】※医療センター
 - ・ 3月末時点の活用医療機関数は150箇所（昨年度より53箇所増加）
- 地域連携クリティカルパスの普及に向けて、パス連絡協議会への参加、関係医療機関とのカンファレンスの実施等に取り組んだ。
 - ・ 医療センターでは、脳卒中・大腿骨骨折パス連絡協議会への参加、院内への周知等を実施
 - ・ 八幡病院では、脳卒中・大腿骨骨折パス連絡協議会への参加、関係医療機関への訪問・カンファレンス等を実施
- 福岡県がん地域連携クリティカルパスの普及に向けて、データ分析や関連部署の協議や運用フローマニュアル作成等に取り組んだ。【再掲】※医療センター
 - ・ 今年度の実績は、肺がん16件、大腸がん10件、乳がん5件
- 地域医療機関との連携強化に向けて、各病院において、地域医療機関を対象とした医療連携会を開催した。
 - ・ 医療センターでは、7月に「医療連携の会」を開催（参加者312名）
 - ・ 八幡病院では、10月に「地域医療連携会」を開催（参加者292名）

ウ 市立病院が一つの病院事業体として、効率的・効果的な病院運営を行うため、医療センターと八幡病院の機能分化や連携を推進する。

- 医療提供機能の相互支援の充実に向けて、各病院の専門分野に関する知識の習得のため、医師を含めた多職種における人事交流を推進する。
- 特に、市立病院の専門分野においては、相互に患者の紹介等を優先的に行う。
- 高度医療機器の共同利用や、診療・検査等における医療提供機能の相互支援に取り組む。

ウ 市立病院が一つの病院事業体として、効率的・効果的な病院運営を行うため、医療センターと八幡病院の機能分化や連携を推進する。

【令和元年度の取組み】

- 医師を含めた多職種における人事交流の推進
- 相互の専門分野における優先的な患者の紹介
- 高度医療機器の共同利用に向けた取組み
- 診療・検査等における医療提供機能の相互支援
- TV会議システムの導入・活用
- 電子カルテの共通化に向けた検討

ウ 医療センターと八幡病院の連携

市立病院が一つの病院事業体として、効率的・効果的な病院運営を行うため、理事長のリーダーシップの下、医療センターと八幡病院の機能分化や連携を推進した。

【令和元年度の取組み】

- 医療提供機能の相互支援の充実に向けて、多職種における人事交流（令和2年4月異動）に取り組んだ。
 - ・ 医師は、医療センターを退職する副院長（循環器内科）を八幡病院副院長として再雇用
 - ・ 看護師は、医療センターから八幡病院へ副看護師長1名、八幡病院から医療センターに看護師1名、医療センターから看護専門学校へ看護師長1名・主査1名、八幡病院から看護専門学校へ主査1名
 - ・ 診療放射線技師は、八幡病院から医療センターへ係員1名
 - ・ 理学療法士は、医療センターから八幡病院へ副技師長1名
- 各病院の専門分野において、相互に優先的な患者紹介に努めた。
 - ・ 医療センターから八幡病院への患者紹介は26件
 - ・ 八幡病院から医療センターへの患者紹介は33件
- 各病院が保有する高度医療機器を有効活用するため、相互の共同利用等について、機構内部の検討に着手した。
 - ・ 磁気共鳴コンピュータ断層装置の共同利用に向けて、患者の移送方法等の諸課題について検討を開始
- 診療・検査等における医療提供機能の相互支援を推進するため、医師の診療応援や臨床放射線技師の交流研修の実施に取り組んだ。
 - ・ 八幡病院の小児科から医療センターの新生児科に派遣（1名、週5H）
 - ・ 医療センターの循環器内科と心臓血管外科から八幡病院の循環器内科に派遣（各1名、週1H）
 - ・ 八幡病院の診療放射線技師を医療センターに研修派遣（1名、2カ月）
- 機構内部の迅速な情報共有や連携促進に向けて、機構本部・医療センター・八幡病院の3箇所、遠隔でのカンファレンスや会議が可能となるTV会議システムを8月に導入した。
 - ・ 機構本部・医療センター・八幡病院の3者による経営本部会議、理事長ミーティング、事務幹部会議等に活用
 - ・ 医療センターと八幡病院の医師や看護師等による相互カンファレンスや会議等に活用
- 電子カルテの共通化について両病院が合意するとともに、近い将来の共通化に向けて、外部の専門家の協力の下、調査・研究に取り組んだ。
 - ・ 電子カルテの共通化に関する効果や課題を整理したほか、機構内部の意思決定機関として「ICT戦略本部」の設置を決定